

パキスタン・イスラム共和国
オルタナティブ教育推進プロジェクト
運営指導調査報告書

平成 29 年 9 月

(2017 年)

独立行政法人 国際協力機構

人間
JR
18-037

目次

目次
地図
略語表

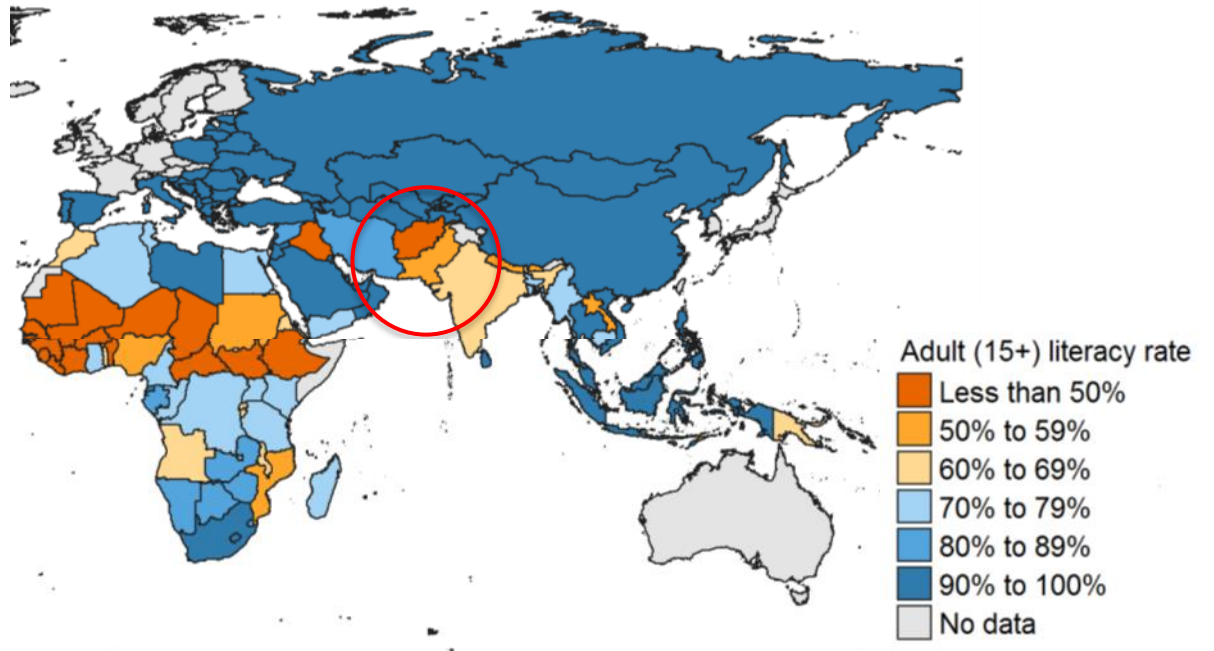
第1章 調査概要	1
1-1 調査団派遣の背景と目的.....	1
1-2 調査団構成と調査期間.....	2
1-3 プロジェクトの概要.....	4
第2章 調査結果	6
2-1 投入実績	6
2-2 各成果の進捗確認と評価.....	6
2-2-1 上位目標、プロジェクト目標.....	7
2-2-2 成果1「対象地域において、ノンフォーマル教育を推進する基盤（政策・実施体制等）が強化される」.....	8
2-2-3 成果2「対象地域において、データに基づくノンフォーマル教育のマネジメントシステムが導入される」	16
2-2-4 成果3「対象地域において、各相手側実施機関による質の高いノンフォーマル教育の提供体制が整備される」	20
2-3 JICAの他案件との連携状況・今後の予定	26
第3章 今後の展望と提言	29
3-1 プロジェクト後半期間における方向性	29
3-2 今後の方向性に伴う必要なインプット、検討事項とその課題.....	30
3-3 提言	31
3-4 まとめ	32
3-4-1 今後のノンフォーマル教育協力構想.....	32
3-4-2 総評	32

付属資料

1. PDM/PO (モニタリングシート Ver.2 (2016年4月-2017年5月) 付属)
2. Performance Monitoring Plan (PMP) (2017年9月時点)
3. プロジェクトに対する提言資料
4. プロジェクトとの協議結果 (Achievements & Way Forward)
5. AQALプロジェクト組織図 (増員計画(案)含む)
6. 訪問先協議記録
7. 日本側投入機材リスト

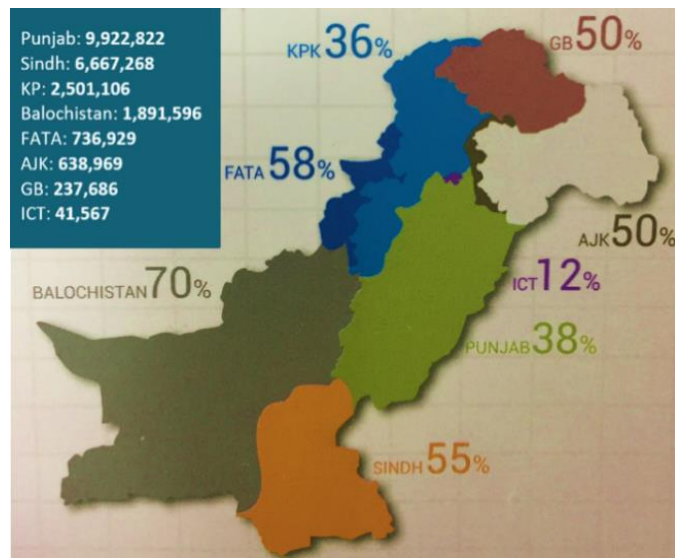
地図

国毎の成人識字率（2016年）



Source: UNESCO Institute for Statistics, 2017

パキスタンの行政区画毎の非就学児童数と割合



Source: Pakistan Education Statistics, 2015-16

略語表

略称	正式名称 (英文)	正式名称 (和文)
AEPAM	Academy of Education Planning and Management	教育計画・運営協会
AKAM	Aga Khan Agency for Microfinance	アガ・カーン・マイクロファイナンス機関
AKRSP	Aga Khan Rural Support Programme	アガ・カーン地域支援プログラム
AQAL	Advancing Quality Alternative Learning Project	オルタナティブ教育推進プロジェクト
BAEC	Balochistan Assessment Examination Commission	バロチスタン教育試験委員会
BECS	Basic Education Community Schools	基礎教育コミュニティースクール
BISE	Balochistan Board of Intermediate and Secondary Education	バロチスタン中等教育委員会
BOC	Bureau of Curriculum and Extension Centre Balochistan	バロチスタンカリキュラム局・エクステンションセンター
CLC	Community Learning Center	コミュニティ学習センター
CSR	Corporate Social Responsibility	企業の社会的責任
DFID	Department for International Development	英国国際開発省
DLNE-SELD	Directorate of Literacy and Non-Formal Basic Education, School Education and Literacy Department, Sindh	シンド州学校教育識字局/識字ノンフォーマル基礎教育部
EAD	Economic Affairs Division	経済統計局
FHBWs	Project for Improvement of Livelihoods and Well-being of Female Home-Based Workers in the Informal Economic Sector in Sindh Province	シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善支援プロジェクト
FMFB-P	The First Microfinance Bank Limited- Pakistan	パキスタンファーストマイクロファイナンスバンク
IFC	International Financial Corporation	国際金融公社

IPEMC	Inter-Provincial Education Minister's Conference	州教育大臣間連携会合
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
LNFBCE	Literacy and Non-Formal Basic Education Department, Punjab	パンジャブ州識字・ノンフォーマル基礎教育局
MFEPT	Ministry of Federal Education and Professional Training	連邦教育・専門的訓練省
M/M	Minutes of Meetings	協議議事録
NCHD	National Commission for Human Development	国家人材開発委員会
NEF	National Education Foundation	国立教育基金
NFBE	Non-Formal Basic Education	ノンフォーマル基礎教育
NEDPG	National Education Development Partners Group	連邦教育開発パートナーグループ
NFE	Non-Formal Education	ノンフォーマル教育
NFE-TWG	Non-Formal Education – Technical Working Group	ノンフォーマル教育テクニカルワーキンググループ
NFEMIS	Non-Formal Education Management Information System	ノンフォーマル教育マネジメント情報システム
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
PC-1	Planning Commission Document 1	プロジェクト計画書1
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PLPP	Punjab Literacy Promotion Project	パンジャブ州識字行政改善プロジェクト
PLPP2	Punjab Literacy Promotion Project (Phase2)	パンジャブ州識字行政改善プロジェクトフェーズ2
PO	Plan of Operation	活動実施計画表
SED	Secondary Education Department, Government of Balochistan	バロチスタン中等教育局
SEF	Sindh Education Foundation	シンド教育基金

SELDS	School Education and Literacy Department, Government of Sindh	シンド州学校教育・識字局
SNE	Statement of New Expenditure	政府計上予算
SSLNF	Social Welfare, Special Education, Literacy, Non-Formal Basic Education and Human Rights Department, Balochistan	バロチスタン州社会福祉・特別教育・識字ノンフォーマル基礎教育・人権局
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）
UNICEF	United Nations Children's Fund	国際連合児童基金（ユニセフ）
USAID	United States Agency for International Development	米国国際開発庁
USAID-SCDP	United States Agency for International Development - Sindh Capacity Development Program	米国国際開発庁-シンド能力開発プログラム
USAID-SRP	United States Agency for International Development - Sindh Reading Program	米国国際開発庁-シンドリーディングプログラム

第1章 調査概要

1-1 調査団派遣の背景と目的

パキスタン・イスラム共和国（以下、パキスタン）の識字率（10歳以上）は60%に留まり、女性に限定すると49%と更に低くなり、パキスタンの教育開発指標は南アジア諸国の中で最低レベルにある（Pakistan Social and Living Standards Measurement Survey 2014-15）。パキスタンの教育普及の阻害要因には、学校と住居の距離といった地理的要因、家計や価値観といった家庭的要因、学校教育内容や教員の資質といった教育的要因が挙げられる。この内、地理的、家庭的の2要因は、通常の学校教育アプローチで改善を図るのは極めて難しいのが現状である。ノンフォーマル教育は、生涯学習の機会拡大や、公教育の（代替的）補完に貢献するオルタナティブなアプローチとして位置づけられている。周辺コミュニティの既存施設を活用しながら、短期間で小学校卒業レベルのカリキュラムの学習や機能的識字の習得が可能である。パキスタンを含め、公教育へのアクセスが制約され、非就学児童・青年、非識字者の課題の深刻な諸国では、ノンフォーマル教育は、特に上記の地理的・家庭的阻害要因への有効な対応策であると考えられる。

JICAは、2004年よりパンジャブ州識字ノンフォーマル基礎教育局（以下、パンジャブ識字局）と協働し、ノンフォーマル教育の確立及び普及・拡大を支援してきた。これまでの支援成果には、ノンフォーマル教育マネジメント情報システム（NFEMIS: Non-Formal Education Management Information System）の構築、ノンフォーマル初等教育及び成人識字教育のスタンダード、カリキュラム、教材、研修モジュール、アセスメント手法の開発などが挙げられる。一方、他地域では、ノンフォーマル教育の普及・拡大、質の担保、およびこれを担う識字・ノンフォーマル教育行政機能のいずれも不十分な状況である。

このような背景から、連邦政府、バロチスタン州、シンド州より、パンジャブ州で形成されたノンフォーマル教育システムの普及支援に関する要請が2014年に我が国に対して提出された¹。また、パンジャブ州からも、ノンフォーマル中等・職業訓練教育システムの構築といった、より発展的な支援が要請された。これらの要請を受け、オルタナティブ教育推進プロジェクト（AQAL: Advancing Quality Alternative Learning Project）が2015年9月から開始された。

¹ ハイバル・パフトゥンハ州は、本案件の実施機関の候補として検討されていたが、要請提出に間に合わなかった経緯がある。本案件では、連邦政府の活動の一環として同州のプロジェクトへの参画機会が設定され、たとえば、NFEMISのテクニカル・コーディネーション会議や研修等には同州関係者も参加している。

今般、本プロジェクト期間の中間時機をとらえ、前半期間（2015年9月～2017年8月）のプロジェクト活動の進捗、プロセス、成果を確認し、今後の課題を抽出し、必要な助言・提言の提示を目的として本運営指導調査を実施した²。

(1)これまで実施した協力活動全般について、プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) に照らし、計画達成度（活動進捗、プロセス、プロジェクト成果の達成状況）を把握する。

(2)プロジェクト後半に向けて今後の課題を確認し、助言、提言する。

進捗の把握に必要なデータは、文献調査、関係者会合への出席及び意見交換を通じて収集した。調査した文献には、半期ごとの事業進捗報告書、プロジェクトの活動を通じて作成された教材等の印刷物、関係する行政機関の計画文書、プロジェクトから提供された現況に係る資料等が含まれる³。

1-2 調査団構成と調査期間

(1) 調査団構成

役割	名前	所属
総括	田中 紳一郎	JICA 国際協力専門員
計画管理 I	岡村 美佳	JICA 人間開発部基礎教育第一チーム Jr.専門員
計画管理 II	中村 真与	JICA パキスタン事務所 所員

(2) 調査期間 2017年8月16日（水）～8月23日（水）

日	内容
8/16 水	・ カラチ到着（田中団長、岡村団員）

² パンジャブ州については、パンジャブ州識字局前次官（2015年3月着任、2018年8月27日退任）によるパンジャブ州以外の関係機関及び活動への干渉、およびパンジャブ州におけるプロジェクト活動に対する見解の違い、及び、識字局・計画開発局・JICAとの協議の長期化に伴い、活動の一時停止を余儀なくされていたため、本調査では調査対象から外している。

³ 脚注2のとおり、プロジェクト開始当初よりパンジャブ州識字局との協議に難航していたという背景があり、事務所主管であった2015年度当時、事務所とプロジェクトで方針確認の上、パンジャブ州識字局前次官の問題が収束するまでJCCを開催しない整理とした。そのため、プロジェクト開始時から本調査団派遣時に至るまで、JCCを開催していない。

8/17	木	<ul style="list-style-type: none"> ・ オルタナティブ教育推進プロジェクト（以下、プロジェクト）との協議 ・ シンド州学校教育識字局/識字ノンフォーマル基礎教育部（Directorate of Literacy and NFE, School Education and Literacy Department, Sindh）との協議 ・ シンド州ノンフォーマル教育タスクフォースメンバー（USAID-SRP, USAID-SCDP, UNICEF）との協議 ・ シンド州学校教育・識字局次官との協議
8/18	金	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノンフォーマル小学校視察（NGO World） ・ ENGRO Corporation⁴との協議 ・ シンド教育基金（Sindh Education Foundation）との協議 ・ ノンフォーマル小学校視察（USAID-SRP）
8/19	土	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイデラバードへ移動 ・ 無償資金協力「シンド南部農村部女子前期中等教育強化計画」にて建設した Wali Dad Jokhio 女子小中学校視察（Governmental Girls Elementary School Wali Dad Jokhio School）および関係者との協議 ・ Sindh Bureau of Curriculum との協議 ・ 技術協力プロジェクト「シンド州持続的畜産開発プロジェクト」との協議
8/20	日	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトとの協議 ・ イスラマバードへ移動
8/21	月	<ul style="list-style-type: none"> ・ NCHD（National Commission for Human Development）（国家人材開発委員会）との協議 ・ 連邦教育・専門的研修省（Ministry of Federal Education and Professional Training）との協議 ・ BECS（Basic Education Community Schools）（基礎教育コミュニティースクール）との協議 ・ バロチスタン州実施機関関係者（バロチスタン州社会福祉・特別教育・識字ノンフォーマル基礎教育・人権局（Social Welfare, Special Education, Literacy, NFE and Human Rights Department）、学校教育局（Directorate of Education）、カリキュラム局・エクステンションセンター（Bureau of Curriculum and Extension Centre）、教育試験委員会（Balochistan Assessment and Examination Commission）、バロチスタン中等教育委員会（Balochistan Board of Intermediate and Secondary Education）との協議 ・ UNESCO との協議

⁴ パキスタン国カラチを拠点とした民間の多国籍企業。肥料、食物、薬品、エネルギーや石油化学製品等の製造業である。シンド州に Sindh Engro Coal Mining Company（石油鉱業）の子会社が設立されている。CSR に積極的に取り組んでおり、本プロジェクトとの協働を通じ同社および取引先（主に下請先）の従業員の識字普及に関心を有している。

8/22	火	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノンフォーマル基礎教育学校視察 (AQAL/NCHD) ・ AEPAM (Academy of Education Planning and Management) との協議 ・ プロジェクトとの協議
8/23	水	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトとの協議 ・ JICA 事務所へ報告

1-3 プロジェクトの概要 (PDM Version 1)

- プロジェクト名： (和) オルタナティブ教育推進プロジェクト
(英) Advancing Quality Alternative Learning Project
- 実施機関名： 連邦教育・専門的研修省、シンド州教育・識字局、バロチスタン州社会福祉・特別教育・識字ノンフォーマル基礎教育・人権局、パンジャブ州識字・ノンフォーマル基礎教育局
- 協力期間： 50 か月 (2015 年 9 月～2019 年 10 月)
- 対象地域： 連邦政府所管地域、バロチスタン州、パンジャブ州、シンド州、
- 上位目標： 連邦政府所管地域、バロチスタン州、パンジャブ州及びシンド州 (以下、対象地域) において、ノンフォーマル教育のアクセスと質が改善する。
- プロジェクト目標： 対象地域にてノンフォーマル教育システムが強化される。
- 成果：
1. 対象地域において、ノンフォーマル教育を推進する基盤 (政策・実施体制等) が強化される。
 2. 対象地域において、データに基づくノンフォーマル教育のマネジメントシステムが導入される。
 3. 対象地域において、各相手側実施機関による質の高いノンフォーマル教育の提供体制が整備される。

活動

【1.1～1-5 連邦、シンド州、バロチスタン州】

- 1-1. ノンフォーマル教育提供機関間での調整を強化するため、国家及び州レベルでの調整会議を支援する。
- 1-2. ノンフォーマル教育政策枠組み／行動計画の策定を支援する。
- 1-3. ノンフォーマル教育担当課の行政構造を改善する。
- 1-4. ノンフォーマル教育を拡大するためのプロジェクトの形成及び承認に向け支援する。
- 1-5. ノンフォーマル教育に関する認証メカニズムの構築について支援する。

【2-1～2-5 連邦、バロチスタン州、シンド州、2-6 パンジャブ州】

- 2-1. NFEMIS（ノンフォーマル教育マネジメント情報システム）を導入する。
- 2-2. データに基づく運営管理のためにNFEMISの使用ガイドラインを改訂し、導入する。
- 2-3. NFEMISを使用するため、連邦、州、県レベルのスタッフを研修する。
- 2-4. パイロットプロジェクトを通し、NFEMISのデータを更新する。
- 2-5. NFEMISを国家教育マネジメント情報システムと統合する。
- 2-6. データに基づく運営管理について助言する。

【3-1～3-4 連邦、バロチスタン州、シンド州、3-5～3-7 パンジャブ州】

- 3-1. ノンフォーマル基礎教育及び成人識字教育のスタンダード、カリキュラム、アセスメント、教材について、改訂の上導入する。
- 3-2. 連邦、州、県の行政官及び教師に対する、ノンフォーマル基礎教育及び成人識字教育の研修モジュールを改訂する。
- 3-3. 連邦、州、県の行政官及び選定された教師に対し、研修を行う。
- 3-4. 選定された地域において、ノンフォーマル基礎教育及び成人識字教育に関する改訂されたスタンダード、カリキュラム、アセスメント、教材を試行的に使用する。
- 3-5. 研修メカニズムの構築及び実施に関し、パンジャブ州識字・ノンフォーマル基礎教育局を支援する。
- 3-6. 研究開発メカニズムの構築及び実施に関し、パンジャブ州識字・ノンフォーマル基礎教育局を支援する。
- 3-7. ノンフォーマル中等・職業訓練教育の実施に関し、パンジャブ州識字・ノンフォーマル基礎教育局を支援する。

第2章 調査結果

2-1 投入実績（2017年8月時点）

《日本側》

- 長期専門家（チーフアドバイザー：2015年9月～、業務調整：2017年4月～）
- 日本および第三国研修（ノンフォーマル教育システムについて）（2017年1月20日～2月4日、東京及びタイ王国）
- 必要機材（情報システム・事務所機材（パソコン、コピー機、プロジェクター、エアコン）等）（付属資料7参照）
- 事務所スペース（ラホール）
- その他プロジェクト実施に必要な経費（ローカルコストの支出：1億4千万円。ローカル専門家・スタッフ数：17名（付属資料5参照））

《パキスタン国側》

- カウンターパート配置
- 事務所スペース（イスラマバード、カラチ、クエッタ）
- ノンフォーマル基礎教育学校、成人識字センターの開設・運営費
- その他プロジェクト実施に必要な経費等（日本側投入以外の必要機材の供給と交換、地図や写真等のデータや情報の供給、セキュリティー関連経費等）

2-2 各成果の進捗確認と評価

本プロジェクトでは、終了時点で達成すべき目標として、全国レベルにおいてノンフォーマル教育を推進・実施するための体制のプラットフォーム⁵形成及びパンジャブ州で形成されたノンフォーマル教育モデル（データに基づく教育行政システム、カリキュラム等の教育ツール）が全国拡大される体制づくりを掲げている。こうした体制づくりにおいては、対象地域でモデルを試行し成功事例を提示し、これを梃子にして、他地域へのモデル普及促進に寄与するコミュニケーション基盤の構築が重要であるとの考え方が含意されている。

各成果の進捗確認は、専門家チームがPDMを基に作成したPMP（Project Monitoring Plan）⁶を参考に、PDMと照応して実施した。

⁵ 「プラットフォーム」は「ノンフォーマル教育を推進・実施するための体制の基盤」を指す。

⁶ 専門家チームが作成したPMPは、詳細設計時のPDMを下敷きに策定された。設定された目標値の妥当性・正当性は本調査時に議論することができなかったためプロジェクト後半期間で吟味していく必要がある。（例：上位目標の1000が何を基に決定されたか、等）

2-2-1 上位目標、プロジェクト目標

上位目標の達成度合いについて、指標 1 では、カスタマイズされたスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法・ツール、教材を導入するノンフォーマル基礎教育学校と成人識字センター数は 0 から 429 に増加した。上位目標（プロジェクト終了後 3 年後を目途）と照応しても、すでに特筆すべき成果であるといえる。他方、指標 2 は本調査中には確認できていない。

上位目標：「連邦直轄地域、バロチスタン州、パンジャブ州及びシンド州（以下、対象地域）において、ノンフォーマル教育のアクセスと質が改善する」

PMP（Project Monitoring Plan）：PDM に沿った指標達成の進展（上位目標）

PDM の指標	PMP の指標	ターゲット	ベースライン	達成度	(%)
上位目標	上位目標				
1.対象地域において、カスタマイズされたスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツール、教材を導入したノンフォーマル基礎学校/成人識字センターの数	1.対象地域において、カスタマイズされたスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツール、教材を導入したノンフォーマル基礎学校/成人識字センターの数 ⁷	1000	0	429 ⁸	42.9
2.対象地域における、ノンフォーマル基礎学校及び成人識字センターで学ぶ生徒数	2.対象地域における、ノンフォーマル基礎学校及び成人識字センターの数	調査中			

（専門家チーム作成（PDM 指標は PMP 指標との比較のため JICA 本部にて和訳・加筆））

プロジェクト目標：「対象地域にてノンフォーマル教育システムが強化される」

プロジェクト目標の達成度合いについて、指標 1（導入されたスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法・ツール、教材に沿って活動を実施するノンフォーマル教育実施機関の数）は 0 から 9 に増加した。指標 2 に関しては、プロジェクトからの提案書（Concept Note）と連邦政府および州政府からのアドボカシーが奏功し、連邦教育大臣が議長を務める州教育大臣間連携会合（IPEMC: Inter-Provincial Education Minister's Conference、四半期ごとに開催される）において、ノンフォーマル教育が定例議題化されることが決定した（2017 年 2 月）。その結果、ノンフォーマル教育が議題として取り上げられた回数が 0 から 3 に増加した。同会合でのノンフォーマル教育の定例議題化は、プロジェクト目標の達

⁷ スタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツール、教材の全て、もしくは一部を使用している教育実施機関を指す。

⁸ PMP 上の各達成度の詳細（各州毎の集計等）については、付属資料 2. を参照。

成に寄与する特筆すべき進展と言える。(詳細は、2-2-2 参照)。

PMP (Project Monitoring Plan) : PDM に沿った指標達成の進展 (プロジェクト目標)

PDM の指標	PMP の指標	ターゲット	ベースライン	達成度	(%)
プロジェクト目標	プロジェクト目標				
1.対象地域にて導入されたスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツール、教材に沿って活動を実施するノンフォーマル教育実施機関の数	1.対象地域にて導入されたスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツール、教材に沿って活動を実施するノンフォーマル教育実施機関の数	5	0	9	180.0
2. 州教育大臣間連携会合においてのノンフォーマル教育に関連する議題の数	2. 州教育大臣間連携会合においてのノンフォーマル教育に関連する議題の数	6	0	3	50.0

(専門家チーム作成 (PDM 指標は PMP 指標との比較のため JICA 本部にて和訳・加筆))

2-2-2 成果 1「対象地域において、政府及びノンフォーマル教育実施機関がノンフォーマル教育を推進する基盤 (政策、実施体制等) が強化される」

以下のようなプロジェクト前半の展開から、シンド州、バロチスタン州、連邦におけるノンフォーマル教育の推進基盤は順調に形成・強化されていると言える。

(1) 各州ごとの取り組みと成果

① シンド州

シンド州では、学校教育・識字局/識字ノンフォーマル基礎教育部 (以下、シンド教育局ノンフォーマル教育部) がノンフォーマル教育に関する政策策定や事業立案・実施を担当する。このシンド教育局ノンフォーマル教育部を議長に、シンド州側関係機関 (シンド州計画開発局、カリキュラム室等) と USAID、UNICEF、JICA 等が協働する「シンド州ノンフォーマル教育タスクフォース(Sindh NFE Task Force)」がシンド州学校教育・識字局に設置され、ノンフォーマル教育推進基盤として機能している。現在までにノンフォーマル教育政策の策定 (2017 年 10 月州議会承認、ノンフォーマル教育法 (現在草案協議中、今後、州閣議で審議))、ノンフォーマル教育政策行動計画の策定が進んでいる。

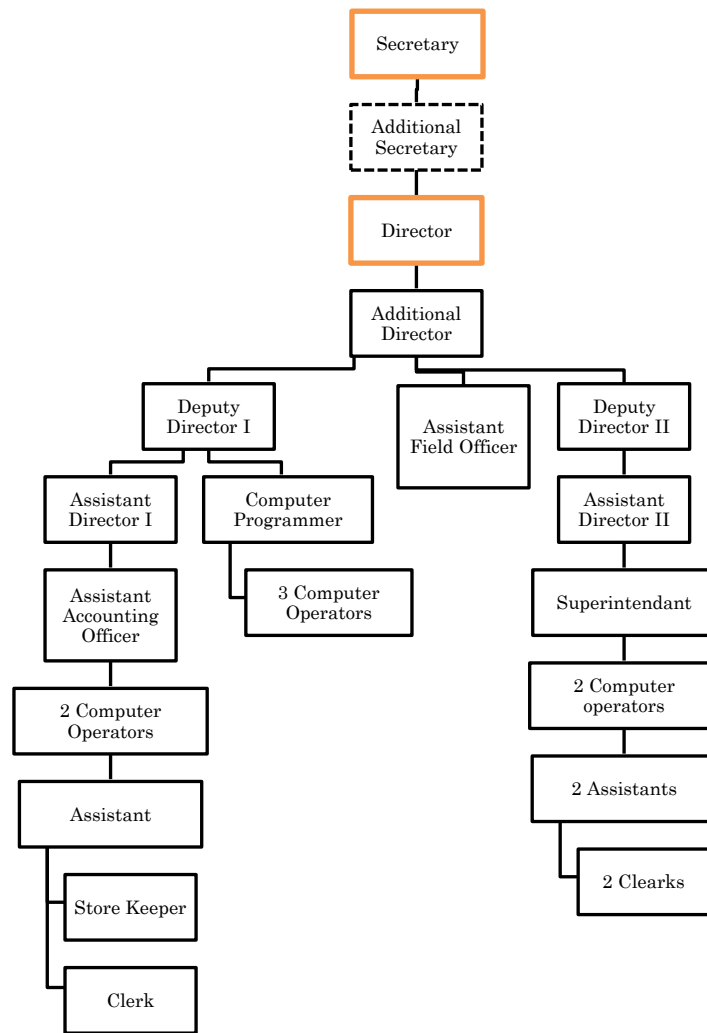
シンド州ノンフォーマル教育タスクフォースは、シンド教育局ノンフォーマル教育部のオーナーシップと各参加機関の高いコミットメントにより効果的に機能しており、本プロジェクトがその発足を誘導したと認識されている。関係者の意見を整理すると、同タスクフォースの設置及び効果的に機能するまでのプロセスの特徴には以下の 4 点が認められる。

第一に、シンド州における教育の問題点⁹を政府・国際援助機関が共有し、その解決策としてノンフォーマル教育の推進を図るという共通認識が得られた点が挙げられる。第二に、ノンフォーマル教育政策を根拠とした財源措置の必要性に関する合意があげられる。当時、政府によるノンフォーマル教育への予算配分は非常に限定的で、財源確保も含めた戦略策定をなすために、ノンフォーマル教育独自の政策が必要であると合意された。このような政策意図と政府によるオーナーシップを持って、シンド州ノンフォーマル教育タスクフォースが設立された。第三にタスクフォースの下部組織として 5 つのワーキンググループが組織された点があげられる。タスク内において、USAID-SCDP がノンフォーマル教育政策策定をファシリテートし、プロジェクトおよび UNICEF とともに中心的に活動している。プロジェクトはカリキュラム開発、ノンフォーマル教育教師の採用・研修フレームワーク、モニタリング・評価、コミュニティモビライゼーション部会などで中心的役割を果たしている。また、UNICEF や USAID-SRP と多方面で協働し、教師トレーニングや教科書配布などでの役割分担も実施している。(特に UNICEF は、プロジェクトが中心となって開発した教材の印刷や、マネジメント情報システム普及を目的とした県政府へのコンピューターの普及において協力的である。) 最後に、タスクフォースに参加している団体及び下部組織の 5 つのワーキンググループで実施している活動とシンド州教育セクタープランとの連動が重要であるというタスクフォース自身の認識を指摘できよう。この認識に基づき、タスクフォースのワークプランの見直しと、セクタープランの再編成を通じてノンフォーマル教育強化を図っている。

このような過程の結果、各々のタスクフォースメンバーが専門性を生かし、互いを補完し合うという環境を創り出しただけでなく、プロジェクト及び各々のメンバーのノンフォーマル関連の活動の効率化(費用、時間、人材等)に繋がっている。また、このようなプロセスを通じ、タスクフォースはタスクフォースのあり方、特に政府がオーナーシップを取る体制を肯定的に認識しており、今後も同体制による活動継続が前提視されている。

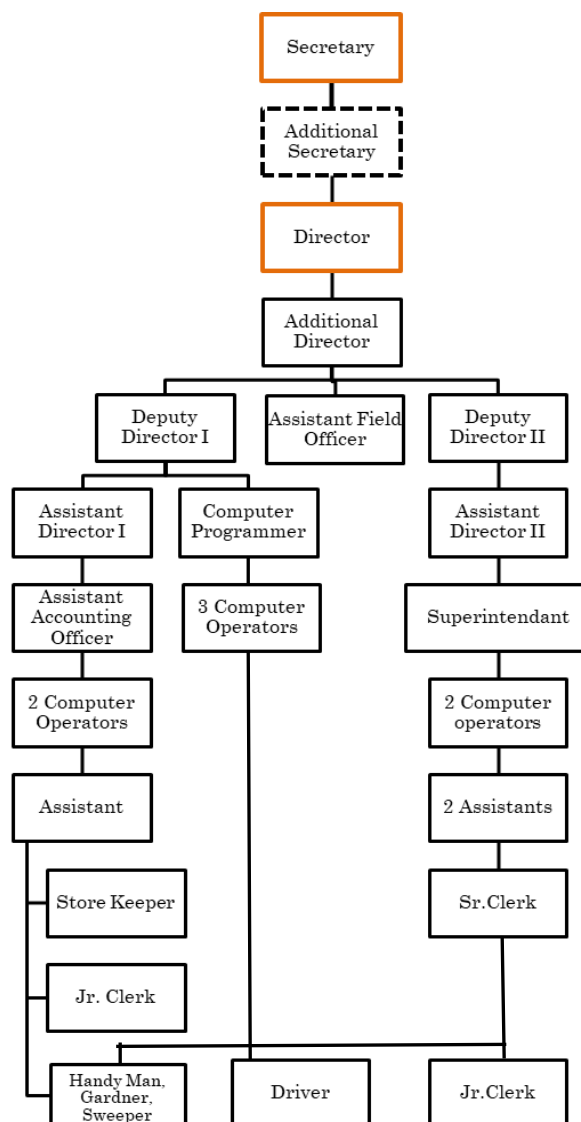
プロジェクト開始時、および調査時点でのシンド教育局ノンフォーマル教育部の組織図を下図に示す。開始時、調査時点共に、シンド教育局ノンフォーマル教育部事務次官を組織のトップとし、続いて事務次官補、局長、次長が配置され、次長から副局長の 2 名とフィールド事務官補佐を指揮する形をとっている。カウンターパートが事務次官と局長の 2 名体制という点も同様であるが、ドライバーや清掃員が配置され、事務員の体制にわずかな変化がみられた。

⁹ シンド州(特に農村部)の非就学率が非常に高い点に加え、公教育のシステムが現状に適応しておらず、ドロップアウトした生徒へ教育の機会が再度与えられない等の課題認識が早期になされた、



出典：シンド州学校教育・識字局

図1 プロジェクト開始時（2015年4月）のシンド教育局ノンフォーマル教育部の組織体制（カウンターパートは太枠で記載）



出典：（2018年8月時点の体制をもとに）プロジェクトにて作成

図 1-1 本調査時（2017年8月）のシンド教育局ノンフォーマル教育部の組織体制
（カウンターパートは太枠で記載）

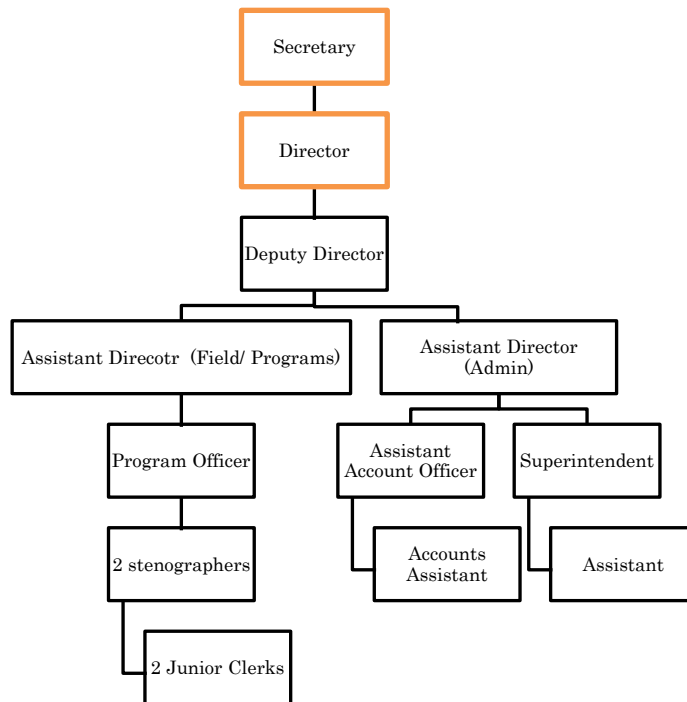
② バロチスタン州

バロチスタン州では、社会福祉・特別教育・識字ノンフォーマル基礎教育・人権局の下に識字・ノンフォーマル教育部があり、ノンフォーマル教育や成人識字の推進に関する政策策定、事業立案・実施、カリキュラム策定（ノンフォーマル基礎教育と公教育との同等性の担保を含む）、教室設置等を扱っている。

バロチスタン州では、同局が中等教育局 (Directorate of Secondary Education)、と密に連携し、カリキュラム局・エクステンションセンター (BOC: Balochistan Bureau of Curriculum

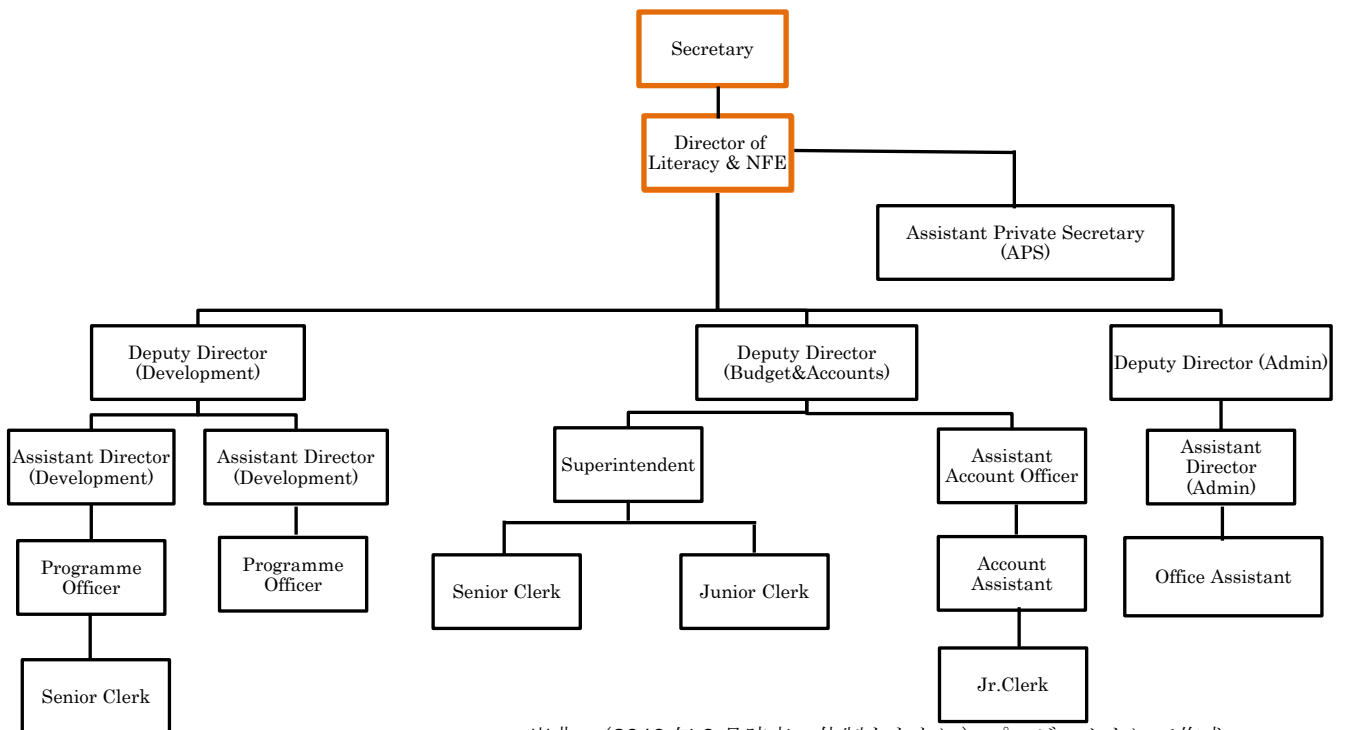
and Extension Center)、教育試験委員会 (BAEC: Balochistan Assessment Examination Commission)、国際援助機関 (特に UNICEF) や現地 NGO が参画するプラットフォームが形成され、ノンフォーマル教育にかかる政策策定、技術的な助言・支援、活動促進、制度化 (人的、予算的な投入に加え、カリキュラムや教材、教師トレーニング等の教育にかかる投入の制度化) 等において協働が展開されている。プラットフォームに携わるメンバーからは、政策策定のプロセスを通じて、データを基にした計画作成の重要性を理解し、(ノンフォーマル教育のみならず) 教育全体の政策の見直しに役立つ教訓を得ているとコメントがあった。また、プラットフォームでは、ノンフォーマル教育テクニカルワーキンググループも形成されている。同グループはプロジェクトとともに、バロチスタン州のノンフォーマル教育システム構築の進捗をモニタリングし、ノンフォーマル教育への介入とバロチスタン教育セクタープランの整合を確認しつつ活動している。またカリキュラム、教材制作、アセスメント等を担当するテクニカルコミッティも別途発足し、複数のワーキンググループによる多方面からのノンフォーマル教育の強化が図られている。こうした工夫は、結果的にプロジェクトの成果の持続性と妥当性の担保にも有用であろう。

プロジェクト開始時、および調査時点でのバロチスタン州社会福祉・特別教育・識字ノンフォーマル基礎教育・人権局の組織体制の組織図を下図に示す。バロチスタン州では、プロジェクト開始時と調査時を比較すると、役職数は 12 から 19 に増加している。カウンターパートは事務次官と局長という体制には変化はないが、開始時は局長の下に副局長が配置され、局長補佐 2 名 (フィールド/プログラムと事務) を統括していた体制から、調査時には局長の直下に局長補佐 3 名 (開発、会計予算、事務) と個人秘書補佐 1 名が配置された。局長補佐の担当部門が 2 つから 3 つに分類され、それぞれの担当の役割と活動が細分化されたことにより、各職員の役割分担がより明確になったと考えられる。



出展：バロチスタン州社会福祉/特別教育/識字 NFE 基礎教育局資料

図 2 プロジェクト開始時（2015 年 4 月）のバロチスタン州社会福祉・特別教育・識字 NFE 基礎教育・人権局識字・NFE 基礎教育部の組織体制（カウンターパートは太枠で記載）



出典：（2018 年 8 月時点の体制をもとに）プロジェクトにて作成

図 2-2 本調査時（2017 年 8 月）のバロチスタン州社会福祉・特別教育・識字 NFE 基礎教育・人権局識字・NFE 基礎教育部の組織体制（カウンターパートは太枠で記載）

③ 連邦政府

プロジェクトは、連邦レベルでは、国家人材開発委員会 (NCHD : National Commission for Human Development) などとの協議を通じて、各州のノンフォーマル教育政策と整合性のある連邦レベルの政策策定を支援している。また、イスラマバードを拠点とする連邦教育開発パートナーグループ (NEDPG: National Education Development Partners Group) では、分科会としてノンフォーマル教育サブグループ (NFE-TWG: Non-Formal Education-Technical Working Group) が発足し、2016年4月より1年間 JICA が議長を務めた。同サブグループでは連邦教育省、UNESCO、UNICEF、USAID、DFID、JICA の共催として、ノンフォーマル教育全国フォーラムを2017年2月に開催し、各州、各団体のノンフォーマル教育システム強化に係る先駆的な事例を共有し、策定途上にあるパキスタン教育政策2030への提言を取りまとめている。前述した州教育大臣間連携会合では、プロジェクトやバロチスタン州によるノンフォーマル教育に関する発表に刺激され、各州 (パンジヤブ州以外) はノンフォーマル教育セクターの予算増額を決定したとのことである。ノンフォーマル教育への認知の高まりと共に、各州の大臣が他州での動向を察知することで惹起された波及効果の一つである。また、ノンフォーマル教育の州教育大臣間連携会合の定例議題化は、ハイレベルに対する定期的なリマインドの機会として有効であり、将来の持続性の担保にも貢献しよう。

PMP (Project Monitoring Plan) : PDM に沿った指標達成の進展 (成果 1)

PDM	No.	指標	測定参考資料	ターゲット	ペースライン	達成度	(%)
1.国家・州のノンフォーマル教育政策が、市民組織を含めたノンフォーマル教育提供組織から広く支持される。 2.各州においてノンフォーマル教育が優先事項であることを正当化する公式文書(セクター計画、省令、通達等)が通達される。	1.1	対象地域で通知されたフォーラム ¹⁰ の数	フォーラム通知報告	3	0	12	400.0
	1.2	対象地域におけるノンフォーマル教育促進のために実施されたフォーラム数	フォーラム議事録、フォーラムメンバーのインタビュー報告書	6	0	23	383.3
	1.3	対象地域で改定・承認されたノンフォーマル教育政策の数	政策文書通達	3	0	2	66.7

10 フォーラムとは、「ノンフォーマル教育の政策・カリキュラムカリキュラム・教材・行政等を政府・ドナー・NGO・プライベートセクターが推進・実施するために協議し方策を決める場」を指す。

1.4	市民組織を含めたノンフォーマル教育提供組織から広く支持された ¹¹ 、国家・州のノンフォーマル教育政策	テクニカルワーキンググループ議事録と通達、NGO等のインタビューレポート	20	0	34	170.0
1.5	各州においてノンフォーマル教育が優先事項であることを正当化する公式文書（セクター計画、省令、通達等）	公的文書	2	0	2	100.0
1.6	対象地域におけるノンフォーマル教育介入のための予算配分の増加（million(Rs.)）	承認済予算書	50	0	185.06	370.1
1.7	対象地域において承認され新規に設置された管理職レベルのポジション・部門数	SNE 承認、行政承認、政府予算書	50	0	100	200.0
合計(成果 1)			134	0	358	267.2

（専門家チーム作成（PDM 指標は PMP 指標との比較のため JICA 本部にて和訳・加筆））

（２）運営指導調査を通じて確認された取組み

プロジェクト着手時（2015 年）、バロチスタン州及びシンド州において、州政府や UNICEF、USAID 等の国際援助機関は、ノンフォーマル教育を教育支援の方法論として認知しておらず、同様に、ノンフォーマル基礎教育や成人識字教室実施の州予算は計上されていなかった。その後、政府や国際援助機関のノンフォーマル教育への認知、理解が高まり、ノンフォーマル教育政策の策定・承認や、アクションプランの策定等の達成をみている。結果、シンド州及びバロチスタン州の政府の関連予算はプロジェクト着手時には計上無しであったが、プロジェクト開始以降、合わせて 3 億 7 千万 (Rs.) (3 億 9 千万(円) (8 月 JICA レート (1PKR=1.06 円)) が計上された。また、シンド州では 5 名の州ノンフォーマル教育行政官、15 名の県ノンフォーマル教育行政官、25 名の県 NFEMIS (ノンフォーマル教育マネジメント情報システム)¹²担当官が、バロチスタン州においては 11 名の州ノンフォーマル教育行政官、45 名の県ノンフォーマル行政官が新しく配置された。特にバロチスタン州については、セキュリティ上、日本人専門家は往訪困難であるにも関わらず、主にローカル専門家の支援により、ノンフォーマル基礎教育及び成人識字のカリキュラムの策定、承認が達成されたことは特筆すべきことである。

¹¹ 「支持された」状態として「測定参考資料において NFE 政策が引用されている、NFE 政策に対して肯定的な発言がされている」と定義している。

¹² NFEMIS で収集される人口、非識字者、潜在的教師、学校ロケーションなどの情報はノンフォーマル基礎学校及び成人識字センターの設置に活用され、生徒の在籍・修了・中退・再入学などの情報は、ノンフォーマル基礎学校及び成人識字センターの運用に活用される。

このような状況変化に貢献した要因として、まず、ローカル専門家の力量を指摘できよう。関係者のノンフォーマル教育への理解醸成や、各地のフォーラムでの協働作業のファシリテーション、各州、連邦の責任者レベル（次官、識字担当部長）やドナーとの密な連絡、関係者を調整・統合するコーディネーション能力に秀でた人材が揃っている。次に、プロジェクトによる具体的・実現可能な提案が持つ説得力が挙げられよう。プロジェクトは前フェーズのパンジャブ州での成果（スタンダード、教材等）や知見とともに、今次フェーズに臨んでいるため、具体的な方法論と実績情報の説得力が強かったものと思われる。最後に、チームマネジメントの適切性を指摘できよう。ローカル専門家の柔軟且つ迅速な配置、チームワークを旨とする職場文化、そしてこれらを司るチーフアドバイザー専門家の高いマネジメント、コミュニケーション能力が本プロジェクトのチームマネジメントの特徴であると見受けられた。

（3） その他留意すべき事項（パンジャブ州の停滞）

2017年8月、パンジャブ州識字局次官（当時）から、シンド州教育局次官やシンド教育局ノンフォーマル教育部長に対し、本プロジェクトの前フェーズで制作された教材開発のプロセス、質に関して疑問を呈する手紙等が送付された¹³。それを受け、シンド州ノンフォーマル教育タスクフォースの場において、シンド州教育局次官から、同州タスクフォースで共同開発中の教材開発等のプロセスが適切か、照会があった。この会合には JICA（プロジェクト）も出席していたが、タスクフォースメンバーである USAID と UNICEF により、即座に適切性について説明がなされ次官の理解を得た。このエピソードは、タスクフォースメンバーの、本プロジェクトに対する理解の深さ、共有された目的認識、オーナーシップ（当事者意識）に根差した同僚性を示している。こうした理解、認識、意識は、タスクフォースにおける政策やカリキュラムの策定～改訂～承認～通達の一連の協働作業と、そこで共有された成功体験により、もたらされたようである。他援助機関との協働は、プロジェクトの活動内容やプロセス、成果品等の正当性／妥当性を、より客観性と説得力をもって説明できる。他援助機関との協働による支援展開は、主たる支援提供者の JICA にとって一種のリスクヘッジ策である点も示唆された。

2-2-3 成果 2「対象地域において、各相手国側実施機関に、データに基づくノンフォーマル教育のマネジメントシステムが導入される」

¹³ 前プロジェクトで制作された教材は、パンジャブ州識字局及び外部有識者も交え、透明性のあるプロセスで作成されたものであり、教材作成のベースとなるカリキュラムはパンジャブ州カリキュラム・教科書委員会による正式な承認を受けたものである。なお、パンジャブ州識字局（前）次官は、ノンフォーマル基礎学校の学習者向けにカスタマイズされた教材は必要ないとの考えに基づき、フォーマル教育の教材の使用を推進し、在任時にパンジャブ州識字局の Rules of Business（業務方針書）を変更した経緯がある。なお、2017年8月に新しく就任した次官は、JICA との対話再開を希望しており、今後パンジャブ州との関係は好転する兆しを見せている。

成果 2 は順調に進捗していると言える。連邦、シンド州、バロチスタン州には、NFEMIS のデータ入力・管理用の担当「室」(セル) が設置され、また、NFEMIS のデータ収集、入力に関わる人材の研修も実施された。

現在の NFEMIS は、前フェーズのプロジェクト (PLPP、PLPP2) で開発及び改訂されたもので、調査当時は (ウェブ版ではない) NFEMIS にデータを入力していたが、調査時においてウェブ版の NFEMIS の完成は間近であった。NCHD、BECS、UNICEF、NGO をはじめとしたノンフォーマル教育実施機関およびシンド州やバロチスタン州などのノンフォーマル教育担当部局が、各ノンフォーマル教育実施機関の情報を NFEMIS のツール (フォーム) に記入し、NFEMIS のデータベースソフトウェア (前プロジェクト時に作成、ニーズに合わせて逐次改訂) にデータを入力している。NFEMIS ウェブ版が完成し次第、ウェブ版に切り替える予定である。

(1) ノンフォーマル教育に関するデータ収集の仕組みの構築

連邦では、教育統計システムシステムを取り扱う実施機関である AEPAM¹⁴ (Academy of Educational Planning and Management) を中心に、UNESCO、UNICEF と連携し、パキスタン教育統計報告書 2015-2016 (Pakistan Education Statistics 2015-2016) の刊行を支援した。同報告書および Education Atlas 2017-2018 内のノンフォーマル教育に関連する情報は、NFEMIS で集計した情報が一部活用されている。現在、プロジェクトはノンフォーマル教育全国状況報告書の作成を支援しており、バロチスタン州、シンド州、パンジャブ州 (識字局直営のノンフォーマル教育教室のデータを除く)、KP (ハイバル・パフトゥンハ) 州、連邦直轄地域 (FATA (連邦直轄部族地域))、イスラマバード首都圏 (ICT) AJK (アザド・カシミール)、GB (ギルギッド・バロチスタン) で、NFEMIS を活用したデータ収集を AEPAM と協働で進めている。現在、全体の 70% のデータ収集が完了しており、全体の 30% のデータが NFEMIS に入力されている。また、各州の NFEMIS への導入に関して、連邦に 2 箇所 (AEPAM と NCHD のオフィス内)、バロチスタンに 1 箇所 (識字・ノンフォーマル教育部のオフィス内) の 3 箇所にセルが設置され、NFEMIS に関する研修時には、常に AEPAM のシニアシステムアナリストを始めとしたスタッフが同行している。シンド州については、教育局ノンフォーマル教育部のオフィス内にスペースがなく、保留となっているが、場所が確保され次第正式に開始される予定である。

(2) NFEMIS の活用

¹⁴ AEPAM は全国的なノンフォーマル教育に関するデータ収集の役割を担っているが、各州に設置されたセルを利用した州ごとのデータ収集、州の EMIS (教育マネジメント情報システム) との統合、データにもとづいたノンフォーマル教育行政の計画、実施、モニタリング等は各州の活動となり、AEPAM は直接関係はしていない。

イスラマバード首都圏 (ICT) ¹⁵では、プロジェクトは NCHD と共にパイロット校としてノンフォーマル基礎学校 (13 校：うち、1 校は生徒が他のエリアに移動したため、閉校) と成人識字センター (すでにパイロット終了) を立ち上げ、教師研修、教師給与、教具等を支援しているが、これらの学校とセンターは、NFEMIS で収集した情報に基づいて設置された。また、シンド教育局ノンフォーマル教育部では、NFEMIS の計画モジュールを活用して、ノンフォーマル基礎学校と成人識字センターの立地が選定された。シンド州の USAID-SRP では、学習者の就学状況に関する情報を活用してノンフォーマル基礎学校開設等の判断に役立てた。バロチスタン州でも、NFEMIS の計画モジュールから抽出した報告書に基づき成人識字センターを設置して行っている。また同州で活動する UNICEF では、NFEMIS のモジュール機能を全てに活用し、学習者・教師の追跡や、教室内備品の整備等を進めている。

今後は、計画モジュールだけでなく、NFEMIS を活用したノンフォーマル教育行政の運営や、モニタリング・評価の活用方法を各州のノンフォーマル教育担当部局のプロジェクトの実施と並行して研修していく予定である。また、州・県レベルの NFEMIS 担当者の設置、データに基づいたモニタリングや行政のシステム作りを同時に展開し、ノンフォーマル教育の行政に NFEMIS がシステムとして活用されていくような持続性の担保を目指している。これらの理由から、連邦、シンド州、バロチスタン州において、データに基づくノンフォーマル教育のマネジメントシステムは順調に導入されていると言える。また、各ノンフォーマル教育関連の諸組織が、NFEMIS を主体的に運用する仕組みを整え、実際に運用開始している点は、プロジェクト終了後の持続的な NFEMIS の運用可能性を高めると思われる。

PMP (Project Monitoring Plan) : PDM に沿った指標達成の進展 (成果 2)

PDM の指標	No.	PMP の指標	測定参考資料	ターゲット	ベースライン	達成度	(%)
1. 連邦・州で NFEMIS 報告書を基に取られた行動	2.1	NFEMIS セルが通知及び設置された地域数	通達書	3	0	3	100.0
	2.2	NFEMIS を通してデータに基づく運営管理 (計画、実施、モニタリング、評価) を実施する公的及びプライベートのノンフォーマル教育実施機関数	国際援助機関のインタビュー報告書 NFEMIS 報告書	3	0	11	366.7

15 パキスタンの行政区画は、分権・連邦化の 4 州 (バロチスタン州、KP(ハイバル・パフトゥンハ)州、パンジャブ州、シンド州)、連邦直轄の 2 地域 (イスラマバード首都圏 (ICT)、連邦直轄部族地域 (FATA)、2 つの実効支配領域 (アザド・カシミール(AJK)、ギルギット・バロチスタン(GB)) に分かれる。

	2.3	NFEMIS 実践の研修を受けた技術者数		300	0	407	135.7
	2.4	連邦・州による NFEMIS データを基にした発行物/報告書数	発行報告書	6	0	2	33.3
	2.5	連邦・州で NFEMIS 報告書を基に取られた行動	インタビュー報告書、議事録、通知/レター	3	0	3	100.0
		合計 (成果 2)		315	0	426	135.2

(専門家チーム作成 (PDM 指標は PMP 指標との比較のため JICA 本部にて和訳・加筆))

(3) 運営指導調査を通じて確認された取組み

プロジェクト開始時、ノンフォーマル教育の質が担保されていない理由の一つとして、ノンフォーマル教育の実態を把握する情報システムの不在が挙げられていた。また、州政府、援助機関のノンフォーマル教育の有効性・必要性の認識は、弱い傾向にあった。プロジェクトは、政策策定や教育統計関連の報告書等を目的とした連邦機関による統計情報収集に着目し、AEPAM との密な連携、協働を通じた NFEMIS の導入と活用能力の向上を切り口に、連邦機関のデータの収集分析にかかる必要性の認識を促している。シンド州では、シンド教育局ノンフォーマル教育部、シンド教育基金、UNICEF、USAID-SRP の技術者が NFEMIS 実践の研修を受講し、NFEMIS の情報を活用しながらノンフォーマル基礎学校と成人識字センターの立地選定、開設等の判断、モニタリング・評価、及び教師研修導入の際に NFEMIS を役立てはじめている。また、バロチスタン州では、学校教育局と社会福祉局の技術者、UNICEF や現地 NGO ノンフォーマル教育関連機関が NFEMIS 実践研修を受講し、NFEMIS の情報に基づき 9 県の成人識字センターを設置した。このように、プロジェクトは各州における NFEMIS の導入と活用能力向上、及び教育の質の担保におけるマネジメント強化に貢献している。

プロジェクトは、データ収集自体が最終目的ではなく、ノンフォーマル教育の施策における活用こそが重要であると機会があるごとに常々説明してきているが、これが NFEMIS によるマネジメント強化の実現に奏功している。プロジェクトは、学校の開設計画、教師の採用及び研修、モニタリングなどの活動支援において、都度 NFEMIS の有用性を提示し、多面的かつ継続的なデータに基づくマネジメントの必要性を訴えてきた。これはプロジェクトが、政策 (成果 1)、データに基づく運営促進 (成果 2)、カリキュラムや教師の研修による質の向上 (成果 3) を複合的に実施できるよう設計されており「多面的で継続的な NFEMIS の利用」を促す条件をもたらしたと推察できる。

また、データに基づく政策促進を目的に、連邦レベルでは NFEMIS 技術者委員会と、NFEMIS コーディネーション委員会の二つのプラットフォームが設置された (AEPAM、

JICA、各州のノンフォーマル教育担当部、NCHD、 BECS、 UNESCO、 UNICEF 等がメンバー)。これらの委員会は、連邦、シンド州、バロチスタン州、パンジャブ州と連邦直轄地域の代表が参加し全国的に活動しており、NFEMIS の認知の向上と各方面の意見を取り入れた NFEMIS の改善に取り組んでおり、さらに、連邦とシンド州では、公教育を対象とした教育マネジメント情報システムとの整合性の担保や統合も進めている。

2-2-4 成果 3「対象地域において、各相手国側実施機関による質の高いノンフォーマル教育の提供体制が整備される」

連邦、シンド州、バロチスタン州で、ノンフォーマル基礎教育と成人識字のカリキュラム、教材、教師用ガイドライン、教師・学習環境スタンダード、教師養成マニュアルの作成、アセスメントツール等の開発および教師養成トレーニングの実施が進んでおり、質の高いノンフォーマル教育の提供体制は整えられつつある。

連邦、シンド州ではノンフォーマル基礎教育のカリキュラムの開発、承認、通達がなされ、バロチスタン州では、ノンフォーマル基礎教育と成人識字のカリキュラムの開発、承認、通達がなされている。シンド州、バロチスタン州では、ノンフォーマル基礎教育の教材である Package A、B の最終化、Package C¹⁶の開発が進んでおり、教師用ガイドラインが承認され、教師・学習環境スタンダードは最終化に向けて作成が進んでいる。

【各種教材の開発状況】(2017年9月現在)

	ノンフォーマル基礎教育			
	カリキュラム	教材		
		Package A	Package B	Package C
連邦	承認・通達済 (2017)	予定中	同左	同左
シンド	承認・通達済 (2016)	承認プロセス中	同左	開発中
バロチスタン	承認・通達済 (2016)	承認プロセス中	同左	開始予定中

¹⁶ 本プロジェクトでは、フォーマルな初等教育（5年課程）で用いられるカリキュラムを3つのパッケージに分けて構成している。Package Aは就学前教育（小学校入学の1年前から始まるKachiクラス）及び小学1年相当、Package Bは小学2、3年相当、Package Cは小学4、5年相当。

	ノンフォーマル基礎教育	
	教師用ガイドライン	教師・学習環境スタンダード
連邦	着手中	着手中
シンド	承認済	着手中（最終化に向けて）
バロチスタン	承認済	着手中（最終化に向けて）

	成人識字			
	カリキュラム	教材	教師用 ガイドライン	教師・学習環境 スタンダード
連邦	着手予定	開始予定	着手中	着手中
シンド	着手中	開発中	承認済	着手中
バロチスタン	承認済	開発中	着手中	着手中

(1) カリキュラム、教材等の整備

カリキュラム、教材、教師用ガイドライン等の開発を通じ、「意図された」¹⁷ノンフォーマル基礎教育の質的向上に貢献する成果品は充実されつつある。**Package A、B**については、パキスタン側ノンフォーマル教育担当部局と他援助機関の運営するノンフォーマル教育教室にて試行が開始されている（現在、連邦、シンド州、バロチスタン州合わせて **429** 教室で試行中）。また、カリキュラムと教材は、公教育のカリキュラムとの同等性を確保し、小学校 **5** 学年分のカリキュラムを **3** 段階（パッケージ）にまとめており、公教育では **5** 年で学ぶところを **3** 年 **4** か月で学ぶことができる。また、国語と理科・社会を総合的に扱う教材の作成により、生徒は複数の教科を同時に学ぶことができ、生徒や教師にとって身近で親しみのある内容提示により、短期間で、質の高い内容をより容易に学べる工夫がなされている。

(2) 試行事例の検証

シンド州 **USAID-SRP** によるノンフォーマル基礎教育パイロット校のベースライン・ミッドライン・エンドライン調査によれば、教室環境、教師の教え、生徒の学習達成、いずれも増進している。今後、ローカルコンサルタンツ契約により **1** 年間かけて実施予定のアクションリサーチでは、プロジェクトのノンフォーマル基礎教育に対するアプローチ（特に

¹⁷ カリキュラムの3層構造として、国・政策レベルで「意図された」カリキュラム（＝理念学力）、教師・授業レベルで「実施された」カリキュラム、子供の学習レベルで「達成された」カリキュラム（＝形成学力）がある。意図されたカリキュラムは世界的に同様であるが（Nebres, 1988）、例えば日本の学習指導要領では、「数量、図形などに関する基礎的な概念の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、数学的な見方や考え方の良さを知り、それを活用する態度を育てる」としている（馬場, 2004）。カリキュラム・教材・アセスメントツールは「意図された」カリキュラムが文書として示されている具体物である。

教師養成、教材の有効性) について、介入校、非介入校 (教師、生徒) の効果検証と共に、教育の質の向上のための改善策の検討がなされる予定である。

シンド州、バロチスタン州では、成人識字の教材を開発中であり、学習者の従事する職業・産業別の識字教材開発を試行中である。調査団訪問時点では、パキスタンの民間企業である ENGRO の単純労働者 (非識字者、半識字者) を対象とした成人識字教材の開発が進行中であった。業務従事中の安全対策や、レンガの成形に必要な計量等の基本知識の習得を含む実践的な教材開発により、学習者や企業のニーズに合致した、識字学習機会提供のモデルケースとして期待される。

これらの理由から、連邦、シンド州、バロチスタン州において、質の高いノンフォーマル教育の提供体制は順調に整えられていると言える。

PMP (Project Monitoring Plan) : PDM に沿った指標達成の進展 (成果 3)

PDM の指標	No.	PMP の指標	測定参考資料	ターゲット	ベースライン	達成度	(%)
1. パイロット地区のノンフォーマル基礎学校/成人識字センターにおいてカスタマイズされたスタンダードを基に環境、教師、学びのレベルが改善される	3.1	開発・通達されたノンフォーマル基礎教育カリキュラムがあるエリアの数	通達文書 カリキュラム関連資料	3	0	3	100.0
	3.2	開発・通達された成人識字教育カリキュラムがあるエリアの数	通達文書 カリキュラム関連資料	3	0	1	33.3
2. カスタマイズされたスタンダード、カリキュラム、アセスメント、教材を導入したノンフォーマル基礎学校及び成人識字センター数	3.3	開発・通達されたノンフォーマル基礎学習教材があるエリアの数	通達文書	3	0	0	0.0
	3.4	開発・通達された成人識字学習教材があるエリアの数	通達文書	3	0	0	0.0
	3.5	ノンフォーマル教育の教師研修メカニズムが確立されたエリア数	通達文書	3	0	1	33.3
	3.6	ノンフォーマル教育のアセスメントメカニズムが確立されたエリア数	通達文書	3	0	1	33.3

3.7	連邦、州、県においてカスタマイズされたモジュール/マニュアルを使用して研修された職員数	研修報告書/ 出席簿 インタビュー 一報告書	100	0	89	89.0
3.8	連邦、州、県、コミュニティにおいてカスタマイズされたモジュール/マニュアルを使用して研修された教師数		1000	0	767	76.7
3.9	パイロット地区のノンフォーマル基礎学校/成人識字センターにおいてカスタマイズされたスタンダードを基に環境、教師、学びのレベルが改善される	NFEMIS 報告書 インタビュー パイロット 事業報告書	20	0	30.5	152.5
3.10	カスタマイズされたスタンダード、カリキュラム、アセスメント、教材を導入したノンフォーマル基礎学校及び成人識字センター数	インタビュー 一 関連報告書	1000	0	429	42.9
3.11	プロジェクト対象地域における、合意されたスタンダード、カリキュラム、アセスメント、教材に沿ってサービスを提供するノンフォーマル教育実施機関の数	インタビュー 一 関連報告書	5	0	9	180.0
	合計(成果 3)		2,143	-	1,331	62.1

(専門家チーム作成 (PDM 指標は PMP 指標との比較のため JICA 本部にて和訳・加筆))

(3) 運営指導調査を通じて確認された取組み

プロジェクト開始時、ノンフォーマル教育の質が担保されない原因として、ノンフォーマル教育独自のカリキュラム・教材等の不在、教師や行政官の研修システムの不在が挙げられていた。本調査では、ノンフォーマル基礎教育カリキュラムが、連邦、シンド州、バロチスタン州の全州で開発・承認・通達されたことが確認された。また、教師研修が実施され、カスタマイズされたモジュール/マニュアルを使用して研修された教師数は目標値に対し **76.7%**の達成度となり、質の担保への貢献が確認された。

成人識字教育カリキュラムはバロチスタン州で承認、ローンチングされ、シンド州ではテクニカルワーキンググループにて着手中である。成人識字教材は、連邦では開始予定、シンド州、バロチスタン州では開発中である。

成果1の政策策定においても同様であるが、プロジェクトは、カリキュラム・教材の承認に至るまで全ての過程において、関係する政府機関、国際援助機関と協力している。こうした協力により、承認された成果物の確実な運用・利用、関係機関のオーナーシップの醸成、そしてプロジェクト終了後の持続性の担保（成果物の改定訂等）を狙っている。実際、調査中の会合やインタビューにおいて、シンド州及びバロチスタン州のカリキュラム委員会の職員には、能動的にノンフォーマル教育に取り組む重要性を理解しており、オーナーシップの醸成が促されている様子がうかがえた。また、更なるノンフォーマル教育の強化を目的としたカリキュラム委員会への能力強化への協力打診がなされたが、これもオーナーシップの反映と言えよう。バロチスタン州では、ノンフォーマル教育の学習成果をはかるため、アセスメント委員会による、公教育のアセスメントは別のアセスメントツール開発と、そのアセスメントの結果と公教育との同等性を担保する方針が関係者で協議されており、同州が成果物の改訂等にオーナーシップを持って持続的にノンフォーマル教育の普及に取り組む姿勢が表れている。

また成果物承認後は、成果物の印刷が控えているが、プロジェクト側が安易に印刷費用を負担するのではなく、関係政府機関がプロジェクト終了後も滞りなく成果物の印刷にあたれるよう、プロジェクト期間中の印刷も共同で進める予定である。また各州では新規予算の中に印刷経費を計上し、新たな予算費目の設定を財政当局に働きかけていることから、持続性の担保に対する努力が確認された。

《ノンフォーマル基礎教育を実践する教室の観察報告 (NGO World)》

- ・ 場所：カラチ州コランギ地区（ミャンマーからの移民が多いスラム地区）のノンフォーマル基礎教育センター（教師の母屋の一室をセンターとして使用）
- ・ クラス編成：男女混合で約 30 名（9 歳～11 歳）、女性教師 1 名
- ・ 内容：ウルドゥ語の授業・テーマは「植物」（ウルドゥ語、理科・社会を総合的に学ぶもの）
- ・ 教科書：プロジェクトが作成したパッケージ A を使用
- ・ 生徒持ち物：カバン、教科書、筆記用具（全て支給されたもの）

・ 掲示物：

－ 時間割表

(教科はウルドゥ語、英語、算数・授業時間は1時間～1時間40分/科目)

－ 教室環境チェックリストのポスター (プロジェクト作成)

－ 手作りのアルファベット (英語) と数字

－ ポスター：「本は友達」のタイトルで、‘本は知識の宝庫である’等が記載

－ 図書コーナー：教室の一角に設置、数冊の本が収納されている

生徒全員は行儀よく壁際の床に着座し (机・椅子の設置は無い)、教師は主に立って授業にあたる。生徒は全員、カバン、教科書、筆記用具を持参していた。教師は、まず授業テーマである「植物」への興味・関心を高めるため、手作りの植物の絵を提示し、生徒の身の回りにあるものから植物と自分の生活への関連性を作り出し、なぜ植物の世話をするのか、植物がなくなるとどうなるのか等の質問へ発展させていた。



教室の入り口



個別の確認時に発表する生徒

次のステップでは、「植物 (plant)」の音と文字のつながりを学ぶため、教師は生徒を小グループに分け、グループ毎の練習・確認を行った。前クラスで既に学んでいた内容だったため、生徒は「植物 (plant)」のつづり P, L, A, N, T を正しく発言し、書けるレベルになっていた。小グループ内での確認後、教師はクラスの1名を指名し、クラス全員の前で綴り (スピーキング) と記述 (ライティング) の確認をさせ、この個別確認を最低でもクラスの半分の生徒に対して行った。ほとんどの生徒は間違えずに回答しており、グループ確認に加え個別確認により、生徒たちが自信を持って回答できている様子である。

文字の綴りと発音とを結びつける学習法、生徒たちの興味関心を自然な形で惹起する教材と教師の働きかけ、また生徒の既存の学習を質問形式でグループ・個人レベルで反復しながら生徒の理解を定着させる授業構成や教授法は、記憶重視型教育が主流であるパキスタンにおいて画期的と言える。

生徒は、質問がある際は挙手をする、教師が許可してから起立して発言する等、教師の指導を

中心にクラスの風紀・規律・マナーはよく守られていた。

教師へのインタビューによると、教師研修では教室環境、教授法、生徒の学習達成度について学び、それを実践するにあたりプロジェクトのローカル専門家や現地のマスタートレーナーが毎月のミーティングの場で、進捗をチェックし、支援するシステムが確立されている。また、研修には補完システムがあり、研修での学習が理解できない等の教師をフォローする体制も整備されている。

2-3 JICA の他案件との連携状況・今後の予定

パキスタンで実施済・実施中の以下案件については、プロジェクトとの連携によりノンフォーマル教育へのアクセス向上や教材の質の向上等の波及効果が期待される。

① JICA 無償資金協力 「シンド州南部農村部女子前期中等教育強化計画」(贈与契約締結：2014年2月)

本無償資金協力は、シンド州南部 6 県において、既存小学校を、女子生徒も就学できる前期中等課程を含む基礎学校へアップグレードする上で必要な施設建設・リハビリ及び教材の整備や、既存小学校教室の改築を行うことにより、同州における前期中等教育への女子就学者の増加を図り、基礎教育における男女間格差が緩和されることを目的とする案件である。

本調査期間中に訪問したジャムシヨロ県 Wali Dad Jokhio 女子小中学校 (Ja04 サイト) にて、シンド州学校教育・識字局の学校建設担当者、シンド教育局ノンフォーマル教育部、県教育事務所担当官 (District Education Officer)、当案件の調達監理にあたる日本国際協力システム (JICS) 担当者と共に、同学校校舎の空き時間を利用したノンフォーマル基礎教育学校、成人識字教室としての活用可能性について意見を交換した。結果、同学校はシンド州側のイニシアチブにより、日本の協力により増設した 6~8 年生分の教室・教師をさらに拡張し、10 年生まで教室・教師を確保していく計画を確認した。その上で、学校教育・識字局担当官、シンド教育局ノンフォーマル教育部長、県教育事務所担当官、プロジェクト 4 者により、同学校の教室および多目的室を利用したノンフォーマル基礎学校、成人識字センターのパイロット的な開設が合意された。シンド教育局識字ノンフォーマル教育部長からは、今年 2 月に参加した国別研修で立案したアクションプランに基づき、本学校の多目的室を公民館のコンセプトを取り入れたコミュニティ学習センター (Community Learning Center: CLC) の第一弾としたい旨表明され、県教育事務所担当官、AQAL プロジェクトも同案に賛同し、具体的な活動計画に向け今後、協議を続けていくことを確認した。

無償資金協力により建設された中学校の隣には従来の小学校校舎があり、同校舎では小学校 (女子校) が運営されていたが、もともと小学校として認定される前には現在も校長を務める女性が自宅でノンフォーマル教室を開いていたのが始まりである。このような背

景もあり、地域からの校長に対する信頼は厚い。また今後 10 年生まで学習機会が整備される計画があることから、ノンフォーマル基礎学校、成人識字センターに通う強い動機づけとなることも期待される。

② JICA 技術協力 「シンド州持続的畜産開発プロジェクト」(2014 年 1 月～2019 年 1 月)

本プロジェクトは、シンド州畜産・水産局を実施機関とし、畜産に携わる農家の収入と資産の増大のための基盤（適正技術開発・普及体制整備・実施機関の体制強化）をシンド州において構築することを目標とする案件である。

地域住民に対する畜産技術普及を担当する川元専門家より、同畜産プロジェクトの進捗とコミュニティ普及用の教材について解説を受けた。技術普及対象となる住民の多くが非識字者であるため、プロジェクトで開発した技術者用マニュアルの内容を紙芝居の形にして、1 テーマ 40 分×計 8 回の訪問にわけて技術普及活動を実施している。1 リットル等の容量の概念は通じないため、住民が身近に使用している容器の絵柄などを利用して教材を開発している。

AQAL プロジェクトとしては、畜産プロジェクトで開発済の技術者用マニュアルをもとに、畜産に従事する学習者のための成人識字教材を開発することを計画していたが、川元専門家が開発しているコミュニティ普及用の紙芝居の教材のコンセプトが、既に成人識字教材との親和性が高いため、教材開発の参考にしたい旨依頼し、川元専門家より快諾を得た。成果品利用にあたっては、プロジェクト成果品の二次利用に係る著作権の手続き（総務部所管）をしかるべく踏むことを確認した。

③ JICA 技術協力 「シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善支援（FHBWs）プロジェクト」(2017 年 3 月～2022 年 9 月)

本調査団期間中に訪問・協議はしていないが、FHBWs プロジェクトはシンド州女性局を実施機関とし、(1)サプライ・バリュー・チェーンの強化（特にマーケティング能力強化）、(2)ライフスキル能力開発、(3)マイクロファイナンスとの連携・商品改善、の 3 つのアプローチを組み合わせて、インフォーマルセクターに従事する女性家内制工業者の生計向上を目指す案件である。

AQAL プロジェクトは、FHBWs プロジェクトに対し、(1)前フェーズで開発済の成人識字教育の教材、(2)「パキスタン貧困層向けマイクロファイナンス事業」（以下④参照）で開発されたファイナンシャルリテラシーの教材、(3)フィールド調査の調査票に対するコメント、および(4)識字能力のアセスメントツールを提供してきた。11 月末にとりまとめられるフィールド調査の結果は、同プロジェクトから AQAL プロジェクトに提供される予定である。FHBWs プロジェクト開始以前より、AQAL プロジェクトとの連携可能性が挙げられていたが、FHBWs プロジェクトの開始が当初より遅れたことに加え、2 段階方式での技術協

カプロジェクト実施のため活動の本格始動が2018年度の後半となることが見込まれていることから、AQALプロジェクトとプロジェクト協力期間や活動スケジュールが重なりにくい可能性が見えてきている。

④ 海外投融資 出資事業「パキスタン貧困層向けマイクロファイナンス事業」（出資契約調印：2012年3月）

パキスタンで最大規模のマイクロファイナンス銀行であるパキスタンファーストマイクロファイナンスバンク（The First Microfinance Bank Limited- Pakistan : FMFB-P）に対し、JICAは2012年3月から海外投融資のスキームで、出資を行っている。同銀行がマイクロファイナンス事業をパキスタン国内で拡大し、貧困層・零細企業へ金融サービスを提供することによって生活環境改善や雇用機会創出を行うことを目的としている。共同出資者として、同銀行の既存株主であるアガ・カーン・マイクロファイナンス機関（Aga Khan Agency for Microfinance : AKAM）、アガ・カーン地域支援プログラム（Aga Khan Rural Support Programme : AKRSP）、世界銀行グループの国際金融公社（International Financial Corporation : IFC）が、JICAと共に出資を行っている。

同事業で開発されたファイナンシャルリテラシー教材の活用連携の可能性について、2015年JICAパキスタン事務所から前プロジェクトのNFEPPプロジェクトに問い合わせがあり、NCHD、パンジャブ識字局、NGOなどを紹介した。同プロジェクトから派遣されたローカルコンサルタントがマスタートレーナーとなり、NCHD等のマスタートレーナーを対象とする研修を実施した。NCHDでは、同教材をパイロット的に数校の成人識字教室で使い、その有効性が確認された。

これを受けて、NCHDから成人識字のコース開催にあたり、同スタッフへのトレーニングを要請されたためプロジェクトからJICAパキスタン事務所を通して、コンサルタントと連絡を取り合い、NCHDのトレーニングに出向いてもらった。また、教材の印刷にも一部協力した。同教材は、シンド教育基金にもプロジェクトを通じて紹介している。同基金では、今後自らの成人識字教室での活用に向けて教材を印刷予定であり、プロジェクトはトレーナー研修の実施を考えている。

第3章 今後の展望と提言

3-1 プロジェクト後半期間における方向性

プロジェクトの後半期間（2017年9月～2019年10月）に向けて、プロジェクトとの協議において「より多くの学習者に良質なノンフォーマル教育を提供するために、多様なステークホルダーやチャンネルを通じて成果の普及・拡大を目指す」という方向性を確認した。この方向性に基づき、プロジェクト後半に注力すべき優先分野について、以下のとおり確認した。

① ビジネスセクターを含めたより広いレベルにおける、ノンフォーマル教育の認知とそれに伴うプラットフォームの拡大、強化

プロジェクトは、ノンフォーマル教育の部局内だけでなく、部局間の協働を拡大させ、また、政府間だけでなく、他開発援助ドナーともプラットフォームを築き、オープンで建設的な協働体制の形成に貢献してきた¹⁸。また、プロジェクトは各州の財務局・計画・開発局等の決定機関へノンフォーマル教育の必要性のアドボカシーにより、ノンフォーマル教育の予算獲得に成功してきた。プロジェクト後半期間では、ビジネスセクターを含めたより広い範囲を視野に入れ、活動前半の経験を活かしながらノンフォーマル教育のプラットフォームを更に拡大・強化していく。また、行政官の昇任研修等の機会にノンフォーマル教育の重要性を訴え、より多くの行政官にそのアプローチの有効性や効率性の認知を高める。

② 今後の人材育成としての国内、国外研修の実施

プロジェクト前半の活動により、ノンフォーマル教育がパキスタンの識字率増加や非就学児の減少のための効率的な国家戦略だと認識されるようになった¹⁹。連邦教育大臣は、初等教育の学齢期(10歳以上)の子どもや若者が、短期間で初等教育の学習内容を習得し、政府が公教育との同等性を保証する **Accelerated Learning** や技術教育との連携などの教育のイノベーションとしてもノンフォーマル教育を重要視している。また、ノンフォーマル教育政策の策定はプラットフォームの拡大のための効果的なエントリーポイントとなり得る²⁰。今後、政策策定に関わる人材へのノンフォーマル教育の理解促進と人材育成を目指し、国内、国外での研修を実施していく。

¹⁸ 「プラットフォームの拡大が成功している秘訣には【信頼と建設的批判を基調とした開かれた共同体】という自己認識がある」(USAID-SRP 談)

¹⁹ 「ノンフォーマル教育はパキスタンで識字社会を造る唯一の手段である」(連邦教育省大臣談)

²⁰ 「KP州はバロチスタン州のノンフォーマル教育政策に刺激を受け、(KP州での)ノンフォーマル教育政

③ 国家政策の枠組みに基づく活動計画の作成

プロジェクトは、国家政策と技術的なガイドラインに沿って、戦略的に計画・活動を実施してきた。このような行政の政策や計画に基づくプロジェクト活動の実施はプロジェクトの重要な要素として位置づけられ、効果を発現してきた。プロジェクト後半においては、これら政策・計画の枠組みを基に、行動計画作成し、同枠組みに沿ったアドボカシーにより、さらに効果的にノンフォーマル教育を推進する政策及び実施体制（ノンフォーマル教育の普及システム構築や予算・人員の確保など）の基盤を強化する。

④ ノンフォーマル教育担当部局レベルでの NFEMIS のフル活用及び持続性の担保

ノンフォーマル教育の行政の運営や、モニタリング・評価を実施する際、NFEMIS を十分に活用していく。また、州・県レベルの NFEMIS 担当者の設置、データに基づいたモニタリングや行政のシステム作りにより、ノンフォーマル教育行政や施策にとって有用で日常的に活用される形で NFEMIS を導入し、その持続性を担保する。

⑤ アドボカシーや ICT の活用

プロジェクトはイノベーションに関する動きにアンテナを張る一方で、イノベティブな業務推進を重要視し、前例や常識にとらわれない活動を展開している。プロジェクト後半期間においては、州を越えたレベルでの政策・施策の推進（アドボカシー）や、情報通信技術（ICT）の活用により質の高いノンフォーマル教育の提供体制の整備に貢献する。

⑥ 職業別教材パッケージの完成とパイロット活動

前述のとおり、パキスタンの民間企業である ENGRO の単純労働者を対象とした成人識字教材の開発が進行中であるが、他にも職業別の（学習者や企業のニーズに合わせた）識字率向上のための教材パッケージの開発・パイロット活動を通じ、関係者の知識・経験の蓄積によりプロジェクトのインパクトと持続性に貢献する。

3-2 今後の方向性に伴う必要なインプット、検討事項とその課題

プロジェクトは、ローカル専門家の裁量にゆだねて局面を打開しながら成果を導いており、チーフアドバイザー専門家はそれを束ねる分散的な組織統治能力が秀逸である。ローカル人材が有する文化的背景知識やネットワークを活用して、必要な関係者の巻き込み、アドボカシー、合意形成、成果品の普及等を効果的に推進してきた。1つの成果が技術協力プロジェクト1案件に匹敵する規模の取り組みが展開し、更にそれらの成果が相乗効果を生み出している点は、一般的な JICA の技術協力プロジェクトと比較すると際立っている。

策の策定を決定した。しかし、それ以前に、(当時ノンフォーマル教育に対して目覚めていなかった)バロチスタン州の目を開かせてくれたのは、プロジェクトである」(バロチスタン州社会福祉教育局次官)

プロジェクトは、前述の成果 1～3 について、日本人専門家とローカル専門家が特定の地域を担当する形ではなく、4 拠点を常に流動的に動きながら活動をしており、活動の拡大に伴い、各専門家の業務量が増加傾向にある。このため、プロジェクトはシンド州、バロチスタン州での活動展開（特に成果 2, 3 の普及）に必要なローカル専門家の増員配置を希望している。現在提案を受けている増員計画（付属資料 5）については人員・予算共に実施計画書の範囲内であり、良質なノンフォーマル教育の提供に貢献するものとして、増員する意義は高いと思われる。

3-3 提言

調査期間中の各訪問先において、プロジェクトに対して新たな連携・協力支援を求める要望が寄せられ、「インパクトの継続的な拡大」状況が確認された。プロジェクトとして定められた期限・計画されたリソース投入の中で、インパクトと持続性の両方を担保する必要がある。

インパクトの継続的な拡大に関しては、民間事業者（ENGRO）、無償資金協力（シンド州南部農村部女子前期中等教育強化計画）、技術協力（シンド州持続的畜産開発プロジェクト等）との連携可能性も視野に入れており、2018 年 2 月閣議での承認を目指して JICA が案件形成を支援している UNICEF 国際機関連携無償では、シンド州、バロチスタン州、ハイバル・パフトゥンハ州に UNICEF が開校するノンフォーマル基礎学校で、ノンフォーマル教育を提供する枠組みの構築、プロジェクト作成の教材使用などの連携が今後期待されている。また、インパクトを持続していく為には、多様な手段や経路を通じた更なる学習者への裨益、成人識字教育に対するニーズを有する職業領域における活動やそれを担う組織の開拓、そして NGO や民間企業等とのネットワーク強化が期待される。

他方、プロジェクトの持続性の検討領域は（1）各州で実装（ノンフォーマル教育政策の実施が実際に機能する状態）されるノンフォーマル教育政策に基づくノンフォーマル教育施策の経常化、（2）プロジェクトの専門家チームが担う州間・連邦レベルでのノンフォーマル教育政策・施策の推進、統合・調整機能、および、NGO や民間 CSR(Corporate social responsibility : 企業の社会的責任)との協業にかかる持続的な体制づくりの 2 つが考えられる。

（1）の持続性は高いと見込まれる。本プロジェクトによる積極的なアドボカシーと具体的な予算、人材配置等の提案が実を結び、バロチスタン州、シンド州においてノンフォーマル教育の予算、人材ともに増加している。また、各州のプラットフォームのメンバーが展開する事業において、プロジェクトが触媒してきた実践方法が継続的に利用される枠組みが担保されると期待される。（2）の州を越えたレベルでの政策・施策の推進（アドボカシー）、統合調整機能や、NGO や民間 CSR との協業促進機能については同機能を果たすに必要な諸活動の取捨選択や、残す活動の引受先の検討と引き継ぎが、持続的なノンフォーマル教育推進を見据えたプロジェクト後半期間の優先事項である。

3-4 まとめ

3-4-1 今後のノンフォーマル教育協力構想

JICA は 1997 年に首相府（現在の連邦レベル）識字委員会へ長期専門家を派遣、2001 年には連邦政府教育省に長期専門家を派遣し、フォーマル及びノンフォーマル基礎教育の質の向上のために政策レベルの助言を提供してきた。パンジャブ州では 2004 年にノンフォーマル教育分野の協力を開始して以降 13 年にわたり協力を続けており、本プロジェクトを通じて、連邦、シンド州、バロチスタン州を対象地域として全国レベルで成果拡大・普及を開始してからは、2 年経過したところである。既に、シンド州、パンジャブ州関係者、およびプロジェクトから「シンド・バロチスタン州においては開始時に政府が実施する学校・センターの数がほぼゼロであったのがこの 2 年で、ノンフォーマル教育政策や、ニーズに合ったカリキュラムや教材の承認、ノンフォーマル教育の学校の開校や人員の増加など、プロジェクト目標とするノンフォーマル教育システムの構築は出来上がりつつある。しかし、膨大な数の非識字者や非就学児童への対処など問題はまだ山積しており、パキスタン政府側の能力強化、システムの運用を実際に定着していくための予算化などの課題を踏まえると）残り 2 年の協力では成果の定着は難しいので協力を継続してほしいすべき」という意見が寄せられ、プロジェクトの協力期間延長の可能性、フェーズ 2 を新規案件として形成していくか否かという点についても、照会があった。フェーズ 2 を形成していく場合には、来年度（2018 年度）の要望調査プロセスに乗せる必要があるため、今年度（2017 年度）内にプロジェクトの延長及びフェーズ 2 の有無について検討・協議する必要がある。2016 年 4 月から事務所主管から本部主管に移っているが、本部及び事務所にて、パキスタンにおける中長期的な教育協力プログラムの構想検討も選択肢であろう。

3-4-2 総評

本調査を通じて、2 州（シンド州、バロチスタン州）と連邦を合わせた 3 拠点において、ノンフォーマル教育のプラットフォームの形成、NFEMIS の導入、カリキュラム・教材開発、予算獲得等が良好に進展している様子が観察された。プロジェクト開始時点では、シンド州、バロチスタン州の 2 州では、ノンフォーマル教育促進施策は存在せず、関係者のノンフォーマル教育の認知・理解も乏しい状況であったが、プロジェクト開始 2 年を経た現在では、政策・施策の推進に関係者が自発的、協調的に取り組む場「プラットフォーム」が機能している。

JICA は、2004 年から 3 フェーズに渡りパンジャブ州のノンフォーマル教育推進を支援してきた。プロジェクトの専門家チームはこれら先行フェーズに従事したローカル人材を多く擁するが、端的には、より強靱でしなやかなチームに成長していると感じられた。ローカル人材は、各々が高い専門性を有し、自発・自律的に業務に取り組んでいる。チーム内でのコミュニケーションは円滑で、同僚の動向を良く把握しているため突発的の事項に対す

る応答も早急でかつ組織的であると見受けられた。また、各人はプロジェクト目標—成果—活動の構図の中に自らの業務・職務の位置づけを理解しているようである。ローカル人材だからこそ持ち合わせる文化的背景知識や、人脈・ネットワークをフル活用し、関係者の巻き込み、アドボカシー、合意形成、成果品の普及等が効果的になされている。また、バロチスタン州における業務については、治安事情に鑑み、日本人専門家が訪問することが限定的な状況の下、パキスタン側関係者との円滑な関係を保ちつつ、着実に成果を出している背景には、ローカル人材の貢献が大きい。

ノンフォーマル教育を所掌する各州政府の当該部局の主体的関与の実現においても、プロジェクトの実績を高く評価できる。シンド州、バロチスタン州では、ノンフォーマル教育のパキスタン政府側実施機関と援助機関が協働して協調・調整会議の議長を担っている。一方で、関係する他部局の早期からの協議・活動プロセスへの参画により、政策策定やカリキュラム・教材開発、同承認等において着実な進展を実現してきている。連邦レベルでは、連邦教育省と関連組織（NCHD、AEPAM、BECS、NEF）と他援助機関（UNESCO、UNICEF）との協力のもと、政策策定、カリキュラム開発、パイロット校の運営、統計データ収集を進めている。このように、関係機関を上流プロセスから関与させる戦術は意図的になされており、前フェーズから得た教訓の産物である。

ノンフォーマル教育は、公教育を規範とした妥協の産物ではない。ノンフォーマルの環境であるからこそ、学校教育より優位に学びを導ける可能性すら見いだせる。プロジェクトはこうした視角からノンフォーマル基礎教育、成人識字教育カリキュラムを追究している点が特徴である。同時に普及・展開のプロセスに各州の多様な関係者が上流から関与する、いわば「協業体」構築意義は大変に大きい。ノンフォーマル教育の実践方法開発においても、その普及展開における協働方法においても独自の優れた特徴をプロジェクトは有している。

課題を挙げるとするならば、プロジェクトが提供している各種サービスの持続性である。教材開発と教師研修、質担保、NFEMISの実装、各州、連邦の政府組織におけるプラットフォーム形成と発展、および民間企業との連携において、プロジェクトは多大な推進・触媒機能を発揮しているが、技術協力プロジェクトに対する投入なしにこの機能を維持する目算が現在のところ立っていない。次期支援を視野に入れた今後の展開においては、この課題を解決する方策の構想が一つの大きなテーマとなる。

付属資料

1. PDM/PO (モニタリングシート Ver.2 (2016年4月-2017年5月) 付属)
2. Performance Monitoring Plan (PMP) (2017年9月時点)
3. プロジェクトに対する提言資料
4. プロジェクトとの協議結果 (Achievements & Way Forward)
5. AQALプロジェクト組織図 (増員計画(案)含む)
6. 訪問先協議記録
7. 日本側投入機材リスト

Project Design Matrix

Version 2 (April, 2016 - May, 2017)

Project Title: Advancing Quality Alternative Learning Project (AQAL Project)

Implementing Agency: Ministry of Federal Education and Professional Training, Literacy and Non-Formal Basic Education (NFBE) Department Punjab, Education and Literacy Department Sindh, Social Welfare, Speical Education and Literacy & NFBE Department Balochistan


Target Group: [Direct Beneficiary] 1) Federal Government and Provincial Governments (Punjab, Sindh and Balochistan) incharges of Non-Formal Education
 2) District officers in Punjab, Sindh, Balochistan and Federal areas
 3) Teachers of Non-formal basic education schools and Adult Literacy/community learning centers
 [Indirect Beneficiary] 1) Learners of pilot Non-formal basic education schools and Adult Literacy/community learning centers
 2) Non Formal Education Providers (Private Sector, Development Partners and NGOs/CSOs)

Period of Project: July 2015 to August 2019 (50 months)

Project Site: Federal area, Balochistan, Punjab, Sindh

Model Site:

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal Access and quality of Non-formal education (NFE) improved through alternative learning paths in federal area, Balochistan, Punjab and Sindh (the Target Areas)	1. Number of centers/schools that implement customized standards, curricula, assessment methods/tools, and learning materials in the Target Areas is increased 2. Number of NFBE and adult literacy learners who completed NFBE and Adult literacy in the Target Areas is increased	1. Interview with C/P organization 2. NFEMIS			
Project Purpose Non-formal education system is strengthened in the Target Areas	1. Number of NFE providers that provide service aligned to the agreed standards, curricula, assessment and learning materials of respective areas 2. Number of NFE agenda discussed in the inter provincial education ministers' conference is increased	1. Plan document of the NFE provider 2. Conference agenda	1. Public security does not get worse 2. There is no significant policy change in non-formal education sector		
Outputs Output 1: Platform for facilitating NFE is strengthened in the Target Areas	1.1 National/provincial NFE policy widely supported by NFE providers including civil society organizations 1.2 Official document (approved sector plans/ notifications) that legitimize the non-formal education is in the priority of respective provinces	1.1 Interview to NGO NFE providers 1.2 Official document			
Output 2: Data driven management* for NFE is institutionalized in the Target Areas *Cycle of data collecting/updating,analysing, planning, implementing, monitoring and evaluating	Action (XXX, XXX, XXX) taken by federal/provincial department as a response to the NFEMIS report	NFEMIS Report Project document Interview with C/P organizations			
Output 3: Delivery of Quality NFE is improved in the Target Areas	3.1 The level of environment, teachers, and learning are improved based on the customized standards at XX% of the pilot NFBE schools/centers 3.2 Number of NFBE & adult literacy schools/centers which introduce customized standards, curricula, assessment and learning materials	3.1 NFEMIS, interview with C/P organizations 3.2 NFEMIS, interview			

Activities	Inputs		Important Assumption
	The Japanese Side	The Pakistani Side	
1.1 Support national and provincial coordination forums to increase coordination among NFE providers 1.2 Facilitate to develop NFE policy framework/action plans (Federal, Sindh and Balochistan) 1.3 Improve the administrative structure of NFE directorates (Federal, Sindh and Balochistan) 1.4 Support for design and approval of projects for expansion of NFE (Federal, Sindh and Balochistan) 1.5 Facilitate in establishing accreditation and certificate mechanism for NFE	1) Expert 2) Local Project staff 3) Training in Pakistan, third country or Japan 4) Equipment 5) Other expenditure for project activities	1) Counterpart personnel 2) Project offices in Islamabad, Punjab, Sindh and Balochistan 3) Non-formal education schools/centers	
[Federal, Balochistan, Sindh] 2.1 Introduce Non-Formal Education Management Information System (NFEMIS) 2.2 Customize and Introduce guidelines on utilization of NFE-MIS for data driven management 2.3 Conduct training for staff at federal, provincial and district level to utilize NFEMIS 2.4 Update data of NFEMIS through pilot projects 2.5 Integrate NFEMIS with National EMIS			Pre-Conditions Public security does not get worse.
[Punjab] 2.6 Advise for the data driven management			
[Federal, Balochistan, Sindh] 3.1 Customize and introduce standards, curricula, assessment and learning materials of NFBE and adult literacy 3.2 Customize training modules of NFBE and adult literacy for federal, provincial, district officers and teachers 3.3 Train federal, provincial and district officers, and selected teachers 3.4 Pilot-testing of customized standards, curricula, assessment and learning materials of NFBE and adult literacy in selected areas			<Issues and countermeasures>
[Punjab] 3.5 Support Punjab Literacy and NFBE department in development and implementation of training mechanisms 3.6 Support Punjab Literacy and NFBE department in development and implementation of R&D mechanisms 3.7 Facilitate Punjab Literacy and NFBE department in development of Non Formal Middle Vocational Education			

No.	Indicators	MoVs	Target	Baseline	Achievement	%age	Remarks/ details
A	Goal						
A1	Number of centers/ schools that implement customized standards, curricula, assessment methods/ tools, and learning materials in the target areas		1000	0	429	42.9	ICT: 13 Sindh: 340 Balochistan: 76 Total: 429
A2	Number of NFBE and adult literacy centers in target areas is increased						Being gathered
B	Purpose						
B1	Number of NFE providers that provide service aligned to the agreed standards, curricula, assessment and learning materials of respective areas		5	0	9	180.0	National: NCHD (1) Sindh: DL&NFE, SRP, NGO World, APWA, SEF, TCF, UNICEF (7) Balochistan: DL&NFE (1) Total: 9
B2	Number of NFE agenda discussed in the inter provincial education ministers' conference is increased		6	0	3	50.0	NFE has been included as agenda points of the IPEMC meeting in last three meetings
1	Output 1: Platform for facilitating NFE is strengthened in the Target Areas						
1.1	Number of forums notified in target areas	Notification of forums	3	0	12	400.0	National: Donor's forum (1), Technical & Coordination Committees (2) Sindh: Task force (1), Sub-committees (5), donor's consortium (1) Balochistan: NFE Technical committee (1), Assessment TWG (1) Total: 12 forums
1.2	Number of actions taken by forums to promote the NFE in target areas	MoMs of forums interview report of forum members	6	0	23	383.3	National: NFE included in IPEMC as an agenda (1), NFE became priority of the MoFEPT (1), Development partners take NFE at their priority (UNICEF included NFE in 5 year country plan, and DfID decided to initiate a project on NFE), (1) = (3) Sindh: Sindh NFE policy (1), policy implementation framework (1), Sindh NFE act (1), NFBE curriculum (1), teachers' management system (1), NF-EMIS notification (1), monitoring framework (1), social mobilization manual (1), restructuring plan of DL&NFE (1), USAID has declared NFE as one of its core areas of work (1), enhanced funding for NFE by Govt. (1), new positions in DL&NFE (1) = (12) Balochistan: NFE policy (1), policy implementation framework (1), NFBE curriculum (1), adult literacy curriculum (1), assessment system (1), restructuring plan (1), increase in NFE budget (1), new positions for DL&NFE (1) = (8) Total = 23
1.3	Number of NFE policies developed/ revised and approved in target areas	1. Policy documents 2. Notification	3	0	2	66.7	National: National NFE policy under process Sindh: Draft Sindh NFE policy awaiting approval of the CM office Balochistan: Balochistan NFE policy approved and launched

1.4	National/ provincial NFE policy widely supported by x number of NFE providers including civil society organizations	1. Technical working group MoMs and notifications 2. Interviews reports of NGOs/providers	20	0	34	170.0	Sindh: UNICEF, UNESCO, USAID, IRC, SPO, fisher folk, AKU-IED, SEF, TCF, PITE, STEDA, BOC, STBB, SZEBIST, NCHD, BECS (16) Balochistan: UNICEF, UNESCO, UNHCR, BRSP, Society, BOC, PITE, BTBB, BAEC, PPIU, SED, finance, P&D, ARC, IDSP, IPC, NCHD, BECS (18) Total = 34
1.5	Official document (approved sector plans/ notifications) that legitimize the non-formal education is in the priority of respective provinces/	Official documents	2	0	2	100.0	Sector plans (chapters of NFE), sector plan review meetings and points pertaining to NFE
1.6	Increase in budget allocation for NFE interventions in target areas	Budget book Approved projects	50	0	185.06	370.1	National: Sindh: 130 Million Total (32.5 release for year 2017-18) Balochistan: 2015-16 (24.36 Million) 2017-18 (30.7) Million 11.5% increase
1.7	Number of new positions/ sections sanctioned in directorates in target areas	1. SNE approval 2. Administrative approvals 3. PC1 documents	50	0	100	200.0	National: Sindh: New positions (5 provincial level & 15 district level and 25 NF-EMIS offocers at district level) Balochistan: New positions (11 provincial level & 45 district level)
Total (output # 1)			134	0	358	267.2	
2	Output 2: Data driven management* for NFE is institutionalized in the Target Areas *Cycle of data collecting/updating, analysing, planning, implementing, monitoring and evaluating						
2.1	Number of areas with notified and established NF-EMIS cell	Notifications	3	0	3	100.0	National: Notification for AEPAM Sindh: Notification for Sindh Balochistan: Notification for Balochistan
2.2	Number of NFE providers (Public and Private) implementing Data driven management (Planning, Implementation, Monitoring and Evaluation) through NFEMIS	Interview reports of providers NFEMIS reports	3	0	11	366.7	National: BECS, NCHD (2) Sindh: DL&NFE, USAID-SRP, NGO World, SPO, Fisher folk, (...) (6) Balochistan: DL&NFE, UNICEF (ALP), BRSP (3)
2.3	Number of technical staff trained on implementing NF-EMIS		300	0	407	135.7	407 technical staff members trained on implementing NF-EMIS in project target areas
2.4	Number of publications/ reports by Federal and provincial Governments based on NF-EMIS data	Publications Reports	6	0	2	33.3	NF-EMIS chapter included in "National Education Statistical Report 2016-17" and Education ATLAS 2017-18
2.5	Number of actions taken by federal/ provincial departments as a response to the NF-EMIS report	Interview reports MoMs Notifications/ letters	3	0	3	100.0	National: Basic facilities and trainings provided in 13 NFBE centers on the basis of NF-EMIS reports Sindh: 1) NFBE centers were established using NF-EMIS planning module reports. 2) SRP made key policy decisions about enrollment after studyig learners' reports Balochistan: 1) adult literacy centers established using NF-EMIS planning module reports, 2) ALP UNICEF making appropriate use of NF-EMIS data and reports
Total (output # 2)			315	0	426	135.2	

3 Output 3: Delivery of Quality NFE is improved in the Target Areas							
3.1	Number of areas with developed and notified NFBE curriculum	Notification Curriculum documents	3	0	3	100.0	National: ALP curriculum approved & launched Sindh: NFBE curriculum approved/ notified and launched Balochistan: NFBE curriculum approved/ notified and launched
3.2	Number of areas with developed and notified Adult Literacy curriculum	Notification Curriculum documents	3	0	1	33.3	National: Under process, NCHD to take lead in this venture with NCC Sindh: TWG notified to develop adult literacy curriculum (TWG Notification) Balochistan: Adult Literacy curriculum approved, notified and launched
3.3	Number of areas with developed and notified NFBE learning material	Notification documents	3	0	0	0.0	National: To be initiated Sindh: Package A & B under pilot in NFBE centers, approval awaited Balochistan: Package A & B developed, approval awaited
3.4	Number of areas with developed and notified Adult Literacy learning material	Notification documents	3	0	0	0.0	National: To be initiated Sindh: Under development/ trade specific materials with ENGRO Balochistan: materials piloted in 76 adult literacy centers, revision to be initiated in 2018
3.5	Number of areas with established NFE teachers training mechanism	Notification documents	3	0	1	33.3	National: To be developed Sindh: Teachers' management system approved Balochistan: To be developed/ However, concept paper and budgets developed to establish training resource center for NFE teachers in Balochistan
3.6	Number of areas with established NFE assessment mechanism	Notification documents	3	0	1	33.3	National: To be developed Sindh: Assessment & certification system developed and included in NFE policy provisions Balochistan: assessment system developed/ approved
3.7	Number of officers trained by utilizing customized modules/ manuals at national, provincial/ areas and district levels	Documents Training reports/ attendance	100	0	89	89.0	National: 0 Sindh: 35 Balochistan: 54 Total: 89
3.8	Number of teachers trained by utilizing customized modules/ manuals at national, provincial/ areas, district and community level		1000	0	767	76.7	National: 142 Sindh: 525 Balochistan: 100 Total: 767
3.9	The level of environment, teachers, and learning are improved based on the customized standards at XX% of the pilot NFBE schools/centers	NF-EMIS reports Interviews Piloting reports	20	0	30.5	152.5	Results based on baseline and end-line study in Sindh: Teachers: 10.8% (from 54% to 64.8%) Environment: 12.6% (from 43% to 55.6%) Learning Outcomes: 68% (from 11% to 79%)
3.10	Number of NFBE & adult literacy schools/ centers which introduce customized standards, curricula, assessment and learning materials	Interviews Documents	1000	0	429	42.9	National: 13 Sindh: 340 Balochistan: 76 Total: 429
3.11	Number of NFE providers that provide service aligned to the agreed standards, curricula, assessment and learning materials of respective areas	Interviews Documents	5	0	9	180.0	National: NCHD (1) Sindh: DL&NFE, SRP, NGO World, APWA, SEF, TCF, UNICEF (7) Balochistan: DL&NFE (1) Total: 9
Total (output # 3)			2,143	-	1,331	62.1	
Grand Total			2,592	-	2,115	81.6	

DEBLIEF

Mission to AQAL from JICA hq

This slides

- Where we visited, who we met
- Achievements: outlines, output 1, 2, and 3
- Review points: the criteria of ODA principle of OECD DAC
- Process – its distinguished features
- Suggestions
- What I missed to learn more

Where we visited, people we met

- NFBE centres (NGO world, USAID-SRP/Chemonics, NTCF center) (in Sindh, Barochistan, Islamabad)
- Secretary of education, Directorate of NFE & Literacy, Curriculum, textbook, STEDA, other donor member of the Consortium (Sindh)
- Secretary of welfare, textbook bureau, STEDA, etc (Barochistan)
- MOE (Secretary), BECS, UNESCO, NTCF (Islamabad)

Achievements – Outlines

- Platform (Sindh, Barochistan, Federal) in making a good shape, as a professional community with “openness, trust and constructive criticism” (quoted by USAID-SRP)
- Credibility of NFE has been lifted nationwide (at both policy level and at the centre)
 - NFBE budget Rp. 0- →Rp. 370 Million (3 areas)
 - NFEMIS – part of national statistics now (already)
 - Some parents prefer NFBE over (private) public schools
- “JICA is a champion of NFE in Pakistan” quoted by UNESCO
- Enhanced capacity and performance of the TC team

Outputs 1: NFE platform/consortium

- Platform (consortium) are in making a good shape with respective leadership of the NFE authority
- Policies, acts, action plan, etc., are drafted, discussed, tried out, and notified.

Output 2: NFEMIS

- NFEMIS database is in operation, feeding information for NFE action design.
- Pakistan education statistics (2015-16): NFE table is increased from 1 table to 7 tables, utilizing NFEMIS information

Output 3 Quality NFE provision

- Quality of intended curriculum of NFBE (standards, textbook, material, teachers guide, training contents) significantly improved
 - Phonetic approach, introduction with hands on material (e.g., doll to learn measuring, story telling, explanation, group work, etc.)
- 429 centers across 3 areas
- Emerging evidence:
 - students gain learning before and after enrolling the course.
 - Some parents prefer NFBE center over FE school
 - Evidence provided by non-JICA partner strengthen its credibility

Look at AQAL from OECD-DAC's 5 principles of ODA

RELEVANCE: 16-17 million OOSC, insufficient NFE provision (quality/quantity)

EFFICIENCY: Platform is in making at 3 locations simultaneously with a good compact and performance, while AQAL plays a leading role

EFFECTIVENESS

AQAL-NFBE gains students learning before and after the intervention

Innovative phonetics approach compared to conventional ones following NFE).

Anecdotal: can be more effective than FE (private) - parents preference

IMPACT

Inquiries from KP, Private (Engro), BECS (ICT), Sindh education foundation, etc.

SUSTAINABILITY

Province: Policy, Act legitimate provinces to budget and implement NFBE and Ad LP

TC Team function: Inter and intra coordination and advocacy- to be accommodate by somewhere –needs step parents - Prepare plan to transit before termination

Process: its distinguished features

- Simultaneous approach pursuing 3 outputs at the same time
- NFEPP asset (curriculum, standards, material, training contents, NFEMIS, etc) is very effective to present trustworthiness of NFE “we woke up”
- Platform with not only government but also international donors
- NFE Policy is effective entry point for the platform for collaborative work, making everybody onboard
- Progress toward document notification (via cycles of draft and revision) is process of sharing success and struggles for the platforms
- Credibility refined through this collective work → foster trust of the authority (e.g., secretary, minister, etc) to endorse
- Inter-relationship between provincial and federal work

- High performing team of mix of Local and Japanese experts supervised by the Chief with sound
 - Frequent visit / patience / communication skills / expertise/ paved the way for the stakeholders to “wake up”
 - Each of output is equivalent of a JICA TC, which is managed by Local Expert with supervision provided by the chief

Suggestions

- Monitors basic indicators (e.g., # of learners)
- Estimate the expansion during next two years (numbers of organization, centers, learners)
- Explorer various delivery channel (relevant services that deals with illiterate population) beside existing NFBE and AdLP, to reach more learners
 - In health, agriculture, livestock, household, home economics, gender, labor safety, vocation, etc.
 - Public, private, NGOs, etc. (individual and/or network)
- Further accumulation of the evidence
 - Not only before after but also with without
 - Not only Aga Khan university collaboration but also forthcoming empirical work to be done by partners across the country
- Sustainability (sustain benefit of AQAL)
 - Inter-/intra-regional coordination, regulation, and stimulation function to coherent policy making and implementation nationwide– who will be step parents?
 - How to have courage to stop/regulate to respond to “endless” request
 - Transition strategy and plan needed.

What I missed to learn more

- AQAL methodology in general and more specifically, pedagogy, contents of teacher trainings, center management/operation, community support
 - Provision of school event or improvement cost is vital?)
 - To what extent trainers are conscious of slow learners in class?
 - Graduates are getting better job/learning opportunity?
 - Frequency of opening of new enrolment of package A at a center – every year? Every 3 years?
- Magnitude of the coverage of a center (still how many OOSC in center community? – we know its 15-16 million nationwide for NFBE)
- Equity effect (does AQAL method deliver learning regardless of learners' socio-economic background, given such disparity among the learners?)
- Potential of the comprehensive learning centre (e.g., formal school hosting NFBE, AdLP, CLC function)
- In-depth understanding on policy-policy implementation coherence on paper
- Vision/Scenary/Map . How it'd look like at the 2019 (TC ends) and in 2025.
- Etc., etc.

AQAL project

Achievements/ strengths of the project

Forums/ platforms, capacity, others

The platforms created by AQAL project has pulled together a range of education stakeholders to take NFE at their agenda

JICA AQAL has been recognized as a leading agency among stakeholders in strengthening systems of NFE in Pakistan.

JICA is a champion in Non-Formal Education in Pakistan (UNESCO)

Non-Formal Education has now been recognized by the Federal and Provincial Governments as a key national strategy to achieve literacy and enrollment targets

“Non-Formal Education is the only way forward in creating a literate society in Pakistan” Mr. Baligh-ur-Rehman, Minister, Ministry of Federal Education and Professional Training, Islamabad.

AQAL project has created suitable conditions that helped in reinstating the trust of the Finance and Planning & Development Departments on Non-Formal Education institutions in Pakistan. That is why they have started funding Non-Formal Education institutions.

The Finance and Planning & development Departments have again started funding the Non-Formal Education institutions (counterparts) in Pakistan, after regaining their trust on their enhanced management capacities.

By working on NFE curriculum and teaching learning materials, provinces have realized that they can develop curriculum and materials with their human resource and indigenous expertise

Provinces have realized their potential of developing curricula and teaching-learning materials after successfully developing curricula and materials for Non-Formal Education in Provinces

Khyber Pakhtunkhwa province has decided to develop Non-Formal Education Policy after getting inspired from Balochistan Non-Formal Education Policy

AQAL has awakened the napping Non-Formal Education institution in Balochistan (Director PITE, Balochistan)

We are so confident on the capacity of Non-Formal Education directorate that we are continuously putting more people into its system, for they have demonstrated quality delivery. (Secretary, Social Welfare Department, Balochistan)

I am keen to advocate for more projects to expand Non-Formal Education as the directorate has shown to be a credible entity (Secretary, Social Welfare Department, Balochistan)

Coordination/ cooperation:

Through AQAL project inter departmental cooperation has enhanced productively

Inter and intra departmental coordination has increased drastically to produce meaningful cooperation all together for Non-Formal Education in provinces.

AQAL project acted as a coordinating entity that brought provincial level public, development and private sector actors much closer to produce meaningful products for Non-Formal Education in provinces.

In Balochistan, Social Welfare and School Education departments were literally stringent opponents to each other before AQAL project. But the project not only created a strong bond between these departments, but also enabled them to productively develop Non-Formal Education Policy, curricula, and assessment systems jointly

Image of Non-Formal Education

AQAL project effectively mediated in uplifting the capacity of Non-Formal Education Directorates and integrating them in mainstream Education Departments in provinces.

AQAL project, by enhancing the delivery capacity of Non-Formal Education institutions, has created a favorable situation to improve the image of Non-Formal Education all across Pakistan

Non-Formal Education has now earned an attention of the mainstream bureaucracy and politicians

Non-Formal Education has regained its significance in the bureaucratic system of target provinces

Non-Formal Education is no more an ad hoc approach, instead, has regained its worth in the eyes of people and decision makers

Quality focus:

AQAL project has inspired other provinces to focus on NFE (e.g. KP has started working on NFE policy)

AQAL project has been consistent in increasing the quality of materials and delivery methods/ pedagogy

Quality of delivery has remained a distinct clear focus

Sounds based teaching methods has worked wonders in helping children learn the reading skills in earlier grades

My child is able to read in just a few weeks, which he could not learn in years in conventional public sector schools (a mother in one of the ICT NFBE center)

AQAL team and its capacity to deliver

AQAL team has been planning and executing activities more strategically and openly and has purposefully aligned its work with existing national level legal and technical guidelines

Holistic planning, implementation and review strategies that AQAL team implies, is among the key strengths of the project

Technical capacity of the AQAL team and ready made products such as curriculum, policy, teachers' management has really been helping in taking the work forward on a high pace

AQAL team synergize outputs/ different project components to create meaningful relationship and outcomes that are useful for the Non-Formal Education

AQAL team has broken the shackles that restrict innovation and thinking out of the box

Challenges

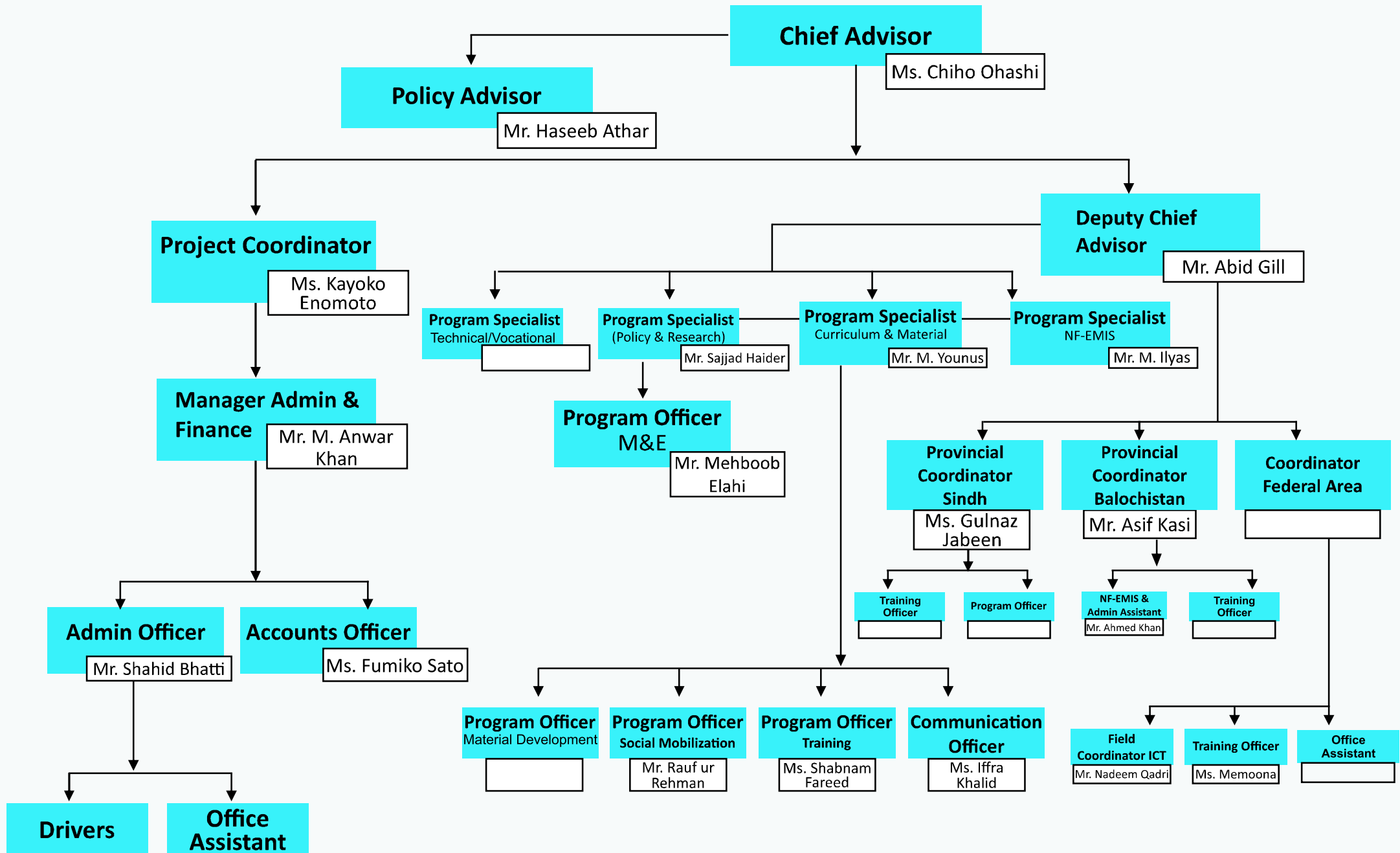
1. AQAL project scope is being enhanced rapidly
2. Capacity and ownership of counterparts
3. Institutionalization of AQAL project interventions
4. Timeline of the project

Future Plan of AQAL

Areas we consider as innovation

Outputs	Innovative areas/ interventions
Output # 1	Expanding and enhancing NFE platforms in different levels (e.g. business sectors)
	Policy framework for action/ action plan
	Strengthening Directorate of Literacy and other related organizations
	Exchange visits (in-country. Out of country)
Output # 2	Full use of NF-EMIS at Directorate level and ensure sustainability for their day-to-day implementation
Output # 3	Elementary and Vocational Education/ training Non-Formal Education
	Information Communication Technology (ICT)
	Complete development of trade-specific materials package and pilot the same

JICA-AQAL ORGANOGRAM



Minutes Memo of Meeting with Directorate Literacy & NFE Sindh

Date and Time	August 17, 2017
Place	Pearl-Continental Hotel, Karachi
	(Directorate Literacy & NFE Sindh side) 1. Mr. Muhammed Alam Thaheem, Director 2. Mr. Manzoor Ahmed Lqaili, Assistant Director 3. Mr. Imtiaz Ahmed Qureshi, Computer Programmer
	(JICA side) 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL)

1) About achievements in Sindh (See details for presentation paper by Directorate Literacy & NFE Sindh)

Output 1: Technical committee and Development Partners Consortium (USAID, UNICEF and JICA) notified to develop NFE policy. Draft Situation Analysis is developed and presented and NFE Task Force with amendments is re-notified. Standard for accreditation is developed. Five Technical Committees, under the overall “NFE Task Force” The 7th forum is the “Donor’s Consortium”. 8th Forum is NFE Act Technical Working Group, actively working to develop NFE Act Sindh. The Secretary SELD has principally agreed to establish NFE Units at Directorate of Curriculum, Assessment & Research (DCAR), Sindh Teacher Education Development Authority (STEDA), Provincial Institute of Teacher Education (PITE) and Sindh Textbook Board (STBB) granting 3 permanent posts in each. Concept Note for Assessment & Certification Mechanism, NFE Sindh developed, initial discussion with DCAR conducted. Established Literacy Resource Centre in Sukkur district. Revised structure of the Directorate of Literacy & NFE Sindh, developing Short, medium and Long Term Plans for Capacity Building. Recently Sindh is almost entering the Medium term phase.

Output 2: Developed NFE-MIS to support in data-driven NFE management including planning, implementation, monitoring and evaluation. Social Mobilization (SM) Guide Sindh is developed and applied in USAID-SRP managed NFBE schools. Monitoring and NFE-MIS tools being piloted in USAID-SRP, and UNICEF supported NFBE schools and disseminated to other NGOs which are operating NFBE schools. MFE-MIS has been notified by School Education & Literacy Department (SELD) Sindh. Monitoring & Evaluation Mechanism for NFE has been proposed, and is under consultation of different stakeholders, before being notified. Advocacy underway with Reform Support Unit (RSU) Sindh for integration of NFE-MIS with SEMIS, and eventually NEMIS.

Output 3: Curriculum for NFBE is developed, notified and uploaded on official website of SED. Learning materials for package A, B (up to grade 3) are developed and piloted in USAID-SRP, SEF and TCF which are managed NFBE schools. Curriculum for Adult literacy and learning materials are developed. Package C (classes 4 & 5) is at the final stages of development. Primer integrating Functional Literacy & Technical skills are developed for pilot testing in ENGRO Thar Coal project Trainings of illiterates as skilled labor. Primers integrating Literacy & Income saving developed to be piloted in Adult literacy centers of the directorate. Conduct action research regarding appropriateness, relevance and quality of the developed learning material. Planned to conduct Action Research regarding appropriateness, relevance and quality of the developed learning material. Primer integrating Functional Literacy & Technical Skills being developed for pilot testing in ENGRO Thar Coal project Trainings of illiterates as skilled labour. NFE integrated into the overall Continuous Professional Development (CPD) Mechanism being implemented by SELD Sindh.

- Through these achievements, JICA-AQAL has been really supportive by instructing what to do for a day, a week and a month. (Mr. Thaheem)
- Secretary has visited 24 district in Sindh to make next Sindh Sector Plan (5 years) more effective. Years ago, NFE was indicated in in Sindh Education Sector Plan but nothing happened. After the intervention of AQAL, the recognition of NFE has been expanded. (Mr. Thaheem)
- Consultation among stakeholders has been well organized and worked. Through 7-8 years experience of AQAL and process of forums organized by

other donors lead the stakeholders' consultation to focus on essential points and detailed plans.

2) About future plans in Sindh (See details for presentation paper)

1. Facilitate in developing Assessment & Certification mechanism for NFBE and Adult Literacy.
2. Supporting the Directorate in implementing the NFE Policy Implementation Framework.
3. Approval of the Learning Material of Packages A and B, submitted to BOC.
4. Piloting the concept of establishing Community Learning Centers (CLCs) in coordination with other departments and organizations.

3) About Adult Literacy Schools in Karachi (Ms. Nakamura and Mr. Muhammed)

87 Adult and NFB centers are already open in 5 districts in Sindh. However, they are not active now because the budget is not released from financial department yet. The schools are ready to open as soon as the budget is released.

4) About JICA Gender Project

- JICA Gender Project has started at April 2017. Since the beneficiaries of AQAL and Gender Project are overlapped, the two projects are closely related (become literate through AQAL and get life skills through Gender project). If the two projects work jointly, it could be beneficial for both projects. In terms of that, AQAL could be attended JCC of Gender project. (Ms. Nakamura and Ms. Seher)

-AQAL shared the "Needs Assessment Tools" for Adult Literacy Curriculum, as well as shared the Analytical Report of the findings of Needs Assessment. AQAL also shared the Life Skill Manual as well as Income Generation Manual with the Gender project.. Sindh Livestock Program also started recently and it is the same situation of Gender project. Sharing data and experience of AQAL is welcomed but the joint work such as participating JCC should be considered carefully to make sure the cooperation is productive for the both projects. (Ms. Ohashi)

5) About adaption of Punjab outcome to Sindh

How does Sindh adapt the outcome of Punjab to its region? (Mr. Tanaka)

Sindh is big and wide geographically and each district has unique aspect. It is essential to learn ideas of Punjab and adjust it to Sindh in its way. To make it happened, Sindh works jointly and cooperatively with its partners. (Mr. Thaheem)

END

Minutes Memo of Meeting with Secretary of School Education and Literacy Department, Sindh

Date and Time	August 17, 2017 17:00 – 18:00
Place	Pearl-Continental Hotel, Karachi
Attendees	(School Education and Literacy Department, Sindh side) 1. Sec. Abdul Aziz Uqaili 2. Mr. Muhammed Alam Thaheem, (Literacy & NFE, Sindh) 3. Mr. Zahoor – Focal Person for Middle School Ugradation Project, SELD Sindh.
	(JICA side) 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL)

1) About future area/topic to focus in coming 2 years

What is the potential area/topic the School Education and Literacy Department, Sindh consider in coming 2 years? (Mr. Tanaka)

Focus would be on supporting in development of Middle Vocational Program. In Australia, around 70 % of students attend vocational/technical training after their graduation of secondary school. Vocational program is important because acquiring technical skills could motivate students to study harder. (Sec. Uqaili)

80 % of children in Pakistan is at primary school learning level. AQAL project is able to support them to acquire basic education. (Mr. Gill)

Sufficient and appropriate budget is now allocated to NFE, which needs to be strategically utilized. (Sec. Uqaili)

2) About long time vision in Sindh

What is the future goal/vision in the long way in Sindh? (Mr. Tanaka)

Goal is to achieve 100% literacy rate ASAP. Strengthening the organizations is

the challenging part, however, various efforts such as providing basic education to prisoners (estimated 20,000) are planned to be conducted to achieve the goal hopefully by 2030. Also, 150 million is loaned from ADB for secondary school education. (Sec. Uqaili)

If Sindh makes its visions clear, it enables AQAL to plan and conduct its cooperation more effective. (Mr. Tanaka)

Noted. (Sec. Uqaili).

END

Notes of Meeting with Engro

Date and Time	August 18, 11:30-12:30
Place	Meeting room, Engro office in Karachi
Attendees	(Engro side) 1. Mr. Naseer Memon (CSR, in charge) 2. Ms. Sabeen Shah (CSR Education program, in charge)
	(JICA side) 1. Ms. Chiho Ohashi (AQAL, Chief Advisor) 2. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL, Project Coordinator) 3. Mr. Abid Gill (AQAL, Deputy Chief Advisor) 4. Mr. Sajjad Haider (AQAL, Education Specialist) 5. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL, Coordinator in Karachi) 6. Mr. Shinichiro Tanaka (Mission Team Leader) 7. Ms. Mika Okamura (Mission Planning) 9. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 8. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan, note taker)

1) CSR programs by Engro

- Engro is one of the large-scale private companies in Pakistan. Their core areas of business are coal mining and power generation.
- Engro runs CSR activities in 6 sectors; 1) Health, 2) Education, 3) Disaster Management, 4) Culture & Social Preservation, 5) Infrastructure and 6) Livelihood.
- In their CSR Education Program, Engro runs several programs with TCF (The Citizenship Foundation, NGO), Aga Khan Foundation, etc. It has also planned to support opening schools in April 2018, for the children from 2 villages near mining site, where the people need to relocate themselves because of mining by ENGRO at the place where their village was. The program for supporting “Dumper Truck Drivers- Female” is one of their famous CSR program.

2) Current situation and progress of collaboration with AQAL

- Engro is working on coal mining, and power generation in block 2 of Thar. There is a huge caseload of illiterate population (youth & adults) as well

as the out of school children in Thar. Owing to the nature and wide scope of their work, ENGRO requires skilled local people to contribute to their work, and has a programme of providing One Month training on various subjects – Masonry, Scaffolding, mining etc. AQAL project, supported by ENGRO Thar Coal visited Thar regarding Needs Assessment for development of Adult Literacy Curriculum Sindh, and observed training of masonry being carried out for illiterate youth of Thar. Review of the Manuals developed by DESCONE revealed that literacy of trainees is one of the basic requirements for the success of training. Most of those workers were semi-literate or illiterate but Engro would like to ensure their occupational safety and to enhance their basic knowledge and skills..

- Since 2016, AQAL and Engro initiated some dialogue to exchange opinion how they can collaborate, and now AQAL is developing a primer (teaching & learning material) for integrated basic skills for Engro workers , which covers 4 skills; 1) Technical Vocational Skills, 2) Literacy & Numeracy, 3) Life Skills and 4) Culture preservation & local wisdom, with 32 topics to fit into 3 months program.
- The curriculum of the primer was designed with selected competencies of NAVTEC curriculum, based on what kind of skills and competencies Engro wants their employees to acquire.
- Some examples of topics in this primer are; 1) name of the tools workers use daily, 2) how to make bricks, 3) how to determine good quality of bricks 4) the basic measurement to calculate the right portion of ingredients (cement, sand and water) to be mixed 5) Occupational safety 6) Culture and traditions, ...etc.
- It was discussed and shared that ENGRO keeps track of all the trainees, and ensures that they are absorbed in job market, preferably in ENGRO, some of them go to other organizations (their record is also available with ENGRO – SECMEC). IT was further shared that once the illiterate or neo literate trainees achieve basic literacy & numeracy ENGRO will place them on better level of job, thus the trainees will be motivated to dedicate three months for literacy combined with skills training, instead of one month.

3) Way forward & points agreed

- AQAL shared their revised draft of the primer of integrated skills

development and Mr. Abid Gill, Deputy Chief Advisor of AQAL, requested Engro to share feedback if any.

- AQAL and Engro confirmed they will also start discussion for the plan for teacher training and provision of teacher, to introduce this pilot primer. It was shared that AQAL will provide the Primer, its Teacher Guide, the Teacher, Training to the Teacher, while ENGRO will arrange the batch of 30 trainees, and will be responsible for all the logistic arrangements of the training, as well provision of stipend for the trainees for three months. The initiative will be put in place, as soon as the Primers are finalized. (preferably by start of October 2017)
- Mr. Naseer, Engro CSR in charge, proposed that AQAL and Engro should prepare and sign Letter of Understanding to officially agree and commit this collaboration with work plan and both agreed to prepare.
- It is confirmed and agreed that Ms. Gulnaz (AQAL) and Ms. Sabeen (Engro) are the focal persons for further communication.

4) Some important notes

- The primer piloting would be the first model case for AQAL to develop the traits-wise teaching & learning materials for adult literacy, reflecting learner's occupational needs and interests.

END

Minutes Memo of Meeting with USAID-SRP (School Visit)

Date and Time	August 18, 2017 16:00 – 16:30
Place	NFE School Qasim Shah Colony (Village Mouch Goth, Kemari town, Karachi)
Attendees	(USAID-SRP side) 1. Ms. Attia Bhutto, Component Lead – NFE, USAID SRP 2. Mr. Aftab Ahmed Nizamani – Early Learning and Literacy Advisor USAID – SRP 3. Ms. Naghma – Monitoring Officer - VTT (Voice of Tele Tech) Implementing Partner of USAID SRP. 4. Ms. Adeela – NFE Teacher at the Centre.
	(JICA side) 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL)

1) About area

The Kemari town in Karachi is a slum area and education is not its priority.

2) About class

There is one female teacher and 35 girls up to grade 3 in the classroom. Class for boys is conducted in the morning session at the same location, by the same teacher.

3) About 3 phases of USAID-SRP

There are 3 phases to be conducted. Package A, B and C are utilized in Phase 1 (3,000 target). In phase 2, students' learning in their NFE schools is exhibited by comparing to the students' learning in grade 4 in Formal Education (12,000 target). Phase 3 combines basic education and vocational training (15,000

target). Phase 1 and 2 are conducted in this period of time and phase 3 which is collaboration with AQAL will be started in November 2017.

4) About number of schools of USAID-SRP

There are total 186 NFE schools of USAID-SRP in Sindh. 101 of them were opened last year (2016). 30,000 children up to grade 5 are targeted.

5) About assessment

Baseline assessment is conducted for every NFE learners in each center . End line assessment is carried out after 8 months of baseline assessment. Formative assessment is also conducted by the teacher.

END

Minutes Memo of Meeting with BECS (Basic Education Community Schools)

Date and Time	August 21, 2017 11:50 – 12:50
Place	BECS, Islamabad
Attendees	(BECS side) 1. Mr. Muhammad Abbas Khan (Director General) 2. Mr. M. Shahbaz Ullah (Director, ops.) 3. Mr. Nabidh Rihz Naru (Director, act) 4. Mr. Abdul Rehman (Assistant Director, IT) 5. Mr. Iran Ulhaqy (Deputy Director, ops) 6. Mr. Khan Zeb (Assistant Director, legal) 7 Mr. Chand Asghar (Director, admin.)
	(JICA side) 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL) and more

1) Why not formal education?

- Literacy rate of Pakistan is nearly 58 %
- 145,829 primary schools are providing basic education
- Capacity and resource constraints in further expansion

2) Why Basic Education Community Schools (BECS)?

- In order to make accelerated efforts to achieve the UPE and SDGs targets, BECS program is the best option, due to:
 1. Low Cost
 2. Easy to establish
 3. Easy access
 4. Gender Equality
 5. Community Ownership
- The number of youth is increased and more focus on youth is needed. In

timing-wise, now is the right time to accelerate BECS program. (Mr. Khan)

3) Design of BECS School

- Single teacher, single room schools
- Premises provided free of cost by the community
- Min. 30 learners are desirable
- Multi-grade teaching methodology; based on formal school curriculum
- Teaching learning Material and text books are provided by the government
- At the end of grade 5, formal sector conducts examination and allows admission in grade 6 in formal schools
- Age 4-16 to cover curriculum in 5 years
- At the beginning, multi-grade system was not expected to perform great, but achievement of the students on BECS is higher than anticipated. More research is needed on this achievement. (Mr. Khan)

4) No. of schools (BECS) /enrollment in each province

1. Punjab: 5,687/234,816
 2. Sindh: 1,674/77,015
 3. Khyber Pakhtunkhwa (KP): 1,389/50,641
 4. Balochistan: 607/20,376
 5. FATA: 1,071/43,779
 6. Gilgit-Baltistan: 1,425/50,032
 7. AJ&K: 203/8,815
 8. ICT: 248/8,498
- (Total: 12,304 schools/493,972 enrollment)

5) Challenges and Issues

- More funds require to expand program to cater 5 million
- GPS devices required for real time monitoring
- Resources required for missing facilities in existing set up (i.e. toilet, solar panel, etc.)
- Non-provision of textbooks to students in current academic year
- Non-provision of teaching learning material from last two years
- No teacher training conducted from last two years

- Especially, basic facilities are needed such as toilet, drinking water and playing tools for small kids. Without toilet, girls students can not come to school. BECS are in charge of facilities, and community manages school. (BECS)

-

6) Way Forward

- Enhanced role of local communities in overall school management through village education committees
 - IT for smart schools
 - Capacity building of teachers and BECS employees
 - Resource Mobilization through smart linkages, partnerships with public and private sector
 - Communication and Digital strategies
 - BECS branding/image building
 - Further expansion of the program
- NFE can be flexible depending on the learners situation, and data is essential to make this happened. Various data such as level of hygiene and number of special children is useful to accelerate the quality of the education as well. (Mr. Haider and Mr. Gill)
- Learning center such as “Kominkan” which provides academic learning, social/culture services and health service would be a future model. (BECS)
 - Networking with teachers and sharing information from well-performed schools will be beneficial. NFE could be more enhanced by involving other NGOs and establishing platform. (BECS)

END

Minutes Memo of Meeting with Federal Ministry of Education

Date and Time	August 21, 2017 10:45 – 11:00
Place	Federal Ministry meeting room, Islamabad
Attendees	(Federal Ministry side) 1. Mr. Shoaib Mir (Secretary)
	(JICA side) 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL) and more

1) From Secretary (New Secretary and its first meeting for AQAL team)

- Expressed appreciation to Japan and AQAL on the great work for expanding NFE.
- There are about 12,000 BECS and Secretary himself observed some of the schools in Karachi. Even though it is a multi-grade system, the schools were managed and performed well. It is because data-based system is operated well.
- BECS in Islamabad are missing facilities such as clean water which is supposed to be provided from public center. It will be appreciable if Japan assists facilities especially for BECS in Islamabad, at least for piloting areas, because BECS in Islamabad should act as a role model.

2) About requests from Secretary

- Expressed appreciation for commitment and passion which are encouraging. Confirmed 2 requests, 1) Upgrading 252 pilot schools in ICT areas with facilities and maintaining good health for children, and 2) verifying NFE-IMS survey. NCHD conducts screening of children. (Ms. Seher)
- Yes. They are correct. Screening of children is done in NCHD. The number of BECS is two times more than the number of NCHD. Please focus more on BECS. (Secretary)

- Duly noticed. They will be followed. (Ms. Seher)

3) Verification of collecting data

- Collected data includes students and teachers profiles. 70% of data is already collected. (Mr. Gill)
- Was all the data collected in Balochistan? There are 2 regions, which are not accessible. The number of the schools in these areas should be recognized. Utilizing GPS could be helpful. (Secretary)
- UNICEF must verify the locations of these schools. (Mr. Gill)
- Expecting future and possible collaboration with Federal Ministry of Education and AQAL. (Mr. Tanaka)

END

Minutes Memo of Meeting with NCHD (Feedback and way forward)

Date and Time	August 21, 2017
Place	NCHD meeting room, Islamabad
Attendees	(Federal Ministry side) 1. Ms. Razina Alcam (Chair Person) 2. Mr. Mushtaq Armed (Director General) 3. Mr. Hasibullah Khani (Coordinator) 4. Mr. Arshad Saeed Kahn (Advisor, NTI) 5. Mr. Iqbal ur Rehman (Consultant, NTI) 6. Dr. M. Salom (Consultant, NTI) 7. Mr. Syed Akbar (National Program Coordinator) 8. Mr. Tupail Ahmed (Manager, Education)
	(JICA side) 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL) and more

1) About NCHD (National Commission for Human Development)

- President of Pakistan is Patron-in Chief of NCHD. The commission is working through administrative control of MO FE & PT. (Ministry of Federal Education & Professional Training)
- Partners of NCHD: PHDF (Pakistan Human Development Fund), UNICEF, UNESCO and JICA
- NCHD Education Program: The goal of NCHD education program is to help GoP realize its international commitments and achieve Vision 2025 through three pronged program strategy; 1 Universal Primary Education (Increase enrollment, reduce dropout, improve quality of education, provide access to education through establishment of feeder schools), 2 NFE/Accelerated learning, 3 Functional Literacy

2) On-going programs of NCHD

1. Non Formal Basic Education through 6,000 Feeder Schools (5-9 age) and accelerated learning for children aged 10-16, including in Deeni Madaris
 - Non formal approach, cost effective, community based, multi-grade teaching techniques
 - No. of feeder schools and enrollment for each school
 - Punjab (1,649, 84,167)
 - Sindh (3,356, 186,463)
 - KP (257, 10,510)
 - Balochistan (419, 16,668)
 - AJK (136, 5,415)
 - Gilgit Baltistan (50, 1,266)
 - FATA (82, 4, 504)
 - TOTAL (5,949, 310,146)
 - Madaris Project: Establishment of 100 feeder schools in Deeni Madaris of pilot project for 3 years (2015-16 to 2017-18) total cost of the project is 50 million. (ICT: 40, FATA: 25, Gilgit Baltistan: 15, AJ & K; 20)
 - NEE-MIS: developed software for record and reporting of feeder schools and 80 % of data collection is completed.
 - NCHD establishing 50 NFBE schools in Islamabad in financial support of JICA Pakistan

2. Functional Literacy Centers (6,000 centers and 150,000 beneficiaries)
 - Functional Literacy model integrates basic literacy with life skills and income generating activities (phonetic method). (6 month, 11-45 years old, w/ focus on women)
 - After completion of the course, learners will be able to read and write from simple text, acquire basic math skills (3 digits) and use literacy skills to function in his/her daily life.

3. National Training Institute for Literacy and Non-Formal Education
 - An approved scheme (PC-1) by planning commission, Gov. of Pakistan
 - NTI (Research and Development, Materials Development, Capacity Development, Assessment, certification and accreditation, and Data Bank
 -

3) Process of NCHD

- NCHD provides various activities and is a strong partner for AQAL. Understand that there are 2 types of works; multilateral (UNESCO, USAID, UNICEF) and bilateral (NCHD-JICA). What is the process for NCHD to achieve its goals? (Mr. Tanaka)
- NCHD focuses on improving learners' life skills and income generating. AQAL is a great partner which provides NFE-IMS and quality and graphical assistant (such as charts) NCHD requires. For institutionalization, NCHD emphasizes on capacity development and Monitoring and Evaluation. NCHD also believes that not only coordination and networking but also advocacy and mobilization are very much needed for sustainability. (Ms. Alcom)
- It is not like JICA inputs to NCHD, rather, it is more like exchange and discuss between JICA and NCHD. Each partner has expertise and we appreciate this mutual cooperative support. (Mr. Gill)

4) Utilizing packages on NCHD

- Packages of AQAL have been used in NCHD. What are the effect/difficulties? (Ms. Nakamura)
- Even though NCHD provides multi-grade system, different age of children can use the package and learn in a same class. Normally, children over 14 can't attend schools, but they can learn at NCHD and especially their parents are very happy about it. Because AQAL packages allows different ages of children to learn together, learners has more selections for schools. For example, one girl switched to attend NCHD because private schools she went was 10 km away and required high tuition. Moreover, the image of Non Formal Education for Federal Minister has been changed from negative to positive because of the successful work of NCHD. (NCHD)

5) NFE-MIS and Future collaboration with AQAL

- NFE database which has nothing at the beginning was established and now it is essential to improve the quality of NFE by increasing teachers' capacity and keeping learners' motivations. (AQAL)
- 2 years of the AQAL project is done and it remains another 2 years. However, NCHD expects that 2 years are not enough and maybe 4.5

years would be necessary. (NCHD)

- Personally agree. Evidence-based approach (facilitate, assessment and return) is essential. If NCHD assess the feeder schools/ALP with NFE textbooks, please share the result. (Mr. Tanaka)
- It is important to accommodate and collaborate each other. (Ms. Ohashi)

END

Minutes Memo of Meeting with AEPAM (Academy of Educational Planning and Management)

Date and Time	August 22, 2017 13:40 – 15:00
Place	AEPAM, Islamabad
Attendees	<p>(AEPAM side)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Mr. Niamatullah Khan (Director General) 2. Mr. Nasir Amin (Incharge NEMIS) 3. Mr. Muhammad Rilal (Programmer, NEMIS) <p>(JICA side)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan) 5. Ms. Chiho Ohashi (AQAL) 6. Ms. Kayoko Enomoto (AQAL) 7. Mr. Abid Gill (AQAL) 8. Ms. Gulnaz Jabeen (AQAL) 9. Mr. Sajjad Haider (AQAL) 10. Mr. M. Ilyas (AQAL) 11. Mr. M. Younus (AQAL) and more

1) About AEPAM and its process

- AEPAM provides the technical support to implement AQAL project.
- It is essential to correct Non-Formal sector data because it provides healthy pictures. AEPAM meets related organization and people in whole Pakistan and convince them to understand NFE and the importance of evidence-based approach. AEPAM also emails and send letters to them to follow up. Because of these efforts, AEPAM has a good relationship with regions. (Mr. Sajjad)
- Pakistan Education Statistics 2015-2016 has 1 NFE table, however, 5 – 6 NFE table will be added on the next issue. (Mr. Rilal)

2) Pakistan Data Forum

- PDF (Pakistan Data Forum) aims for promoting evidence-driven policies and strategies in Pakistan through standardizing the collection, measurement and

reporting of education data.

- Some of the forums organized by AEPAM:
 1. NEMIS Technical and coordination committees
(Members) AEPAM, Provincial/Area EMIS, UNICEF
(Purpose) To produce coherent national and provincial EMIS data and relevant indicators
 2. NF-EMIS Technical and Coordination Committees
(Members) AEPAM, provincial EMIS, Provincial departments of literacy and non-formal basic education, NCHD, BECS, NEF, UNESCO, UNICEF, JICA
(Purpose) To collect Non-formal Education related data
- Work Plan for coming months
(Sep-Oct, 2017) Technical Committee Meetings
(Oct-Nov, 2017) Consultant for Data Analysis
(Nov, 2017) Preparation of Data Mapping Report (Technical Report on Standardization of Education Indicators in Form of education data manual), Follow-up workshops with provinces, Report printing launching and dissemination, National Conference for launch of education data manual

3) Data Collection

- Is the method to get data different from FE and NFE? (Ms. Ohashi)
- Teacher training and assessment are managed in NFE-MIS. Because teachers are not allowed to input data, they mark the result on the proper form and deliver to district officers who input data. Utilizing tablet could be a good idea to make this process more efficient. (AEPAM)
- 70% of all the data is already collected. Some regions do not want to share the data because they do not want to inform the existence of ghost schools in their region. (AEPAM)
- Progress: Establishment of NFEMIS cell at AEPAM, Establishment of Technical and Coordination Committees (TechCOM, CoordCOM) (AEPAM)

END

Minutes Memo of Internal Meeting with AQAL (Internal Evaluation and Way forward)

Date and Time	August 23, 2017 10:00 – 12:30
Place	AQAL meeting room, Islamabad
Attendees	<p>(AQAL side)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ms. Chiho Ohashi (Chief Advisor) 2. Mr. Abid Gill (Deputy Chief Advisor) 3. Ms. Kayoko Enomoto (Project Coordinator) 4. Ms. Gulnaz Jabeen (Provincial Coordinator, Sindh) 5. Mr. Sajjad Haider (Project Specialist) 6. Mr. M. Ilyas (Program Specialist) 7. Mr. M. Younus (Program Specialist) 8. Mr. Mehboob Elahi (Program Officer) 9. Mr. Asif Kasi (Provincial Coordinator, Balochistan) 10. Mr. Mr. Rauf ur Rehman (Program Officer) 11. Ms. Shabnam Fareed (Program Officer) 12. Ms. Iffra Khalid (Communication officer) 13. Mr. M. Anwar Khan (Manager Admin & Finance) 14. Mr. Nadeem Qadri (Field Coordinator ICT) 15. Ms. Memoona (Training Officer) <p>(JICA side)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Mr. Shinichiro Tanaka (JICA Headquarter) 2. Ms. Mika Okamura (JICA Headquarter) 3. Ms. Mayo Nakamura (JICA Pakistan) 4. Ms. Nazia Seher (JICA Pakistan)

1) Achievements/ strengths of the project – Forums/platforms, capacity, and others

- The platforms created by AQAL project has pulled together a range of education stakeholders to take NFE at their agenda
- JICA AQAL has been recognized as a leading agency among stakeholders in strengthening systems of NFE in Pakistan.
“JICA is a champion in Non-Formal Education in Pakistan” (UNESCO)
- Non-Formal Education has now been recognized by the Federal and Provincial Governments as a key national strategy to achieve literacy and

enrollment targets

“ Non-Formal Education is the only way forward in creating a literate society in Pakistan” (Mr. Baligh-ur-Rehman, Minister, Ministry of Federal Education and Professional Training, Islamabad)

- AQAL project has created suitable conditions that helped in reinstating the trust of the Finance and Planning & Development Departments on Non-Formal Education institutions in Pakistan. That is why they have started funding Non-Formal Education institutions.

(The Finance and Planning & development Departments have again started funding the Non-Formal Education institutions (counterparts) in Pakistan, after regaining their trust on their enhanced management capacities)

- By working on NFE curriculum and teaching learning materials, provinces have realized that they can develop curriculum and materials with their human resource and indigenous expertise

(Provinces have realized their potential of developing curricula and teaching-learning materials after successfully developing curricula and materials for Non-Formal Education in Provinces)

- *Khyber Pakhtunkhwa province has decided to develop Non-Formal Education Policy after getting inspired from Balochistan Non-Formal Education Policy*
- *AQAL has awakened the napping Non-Formal Education institution in Balochistan (Director PITE, Balochistan)*
- *We are so confident on the capacity of Non-Formal Education directorate that we are continuously putting more people into its system, for they have demonstrated quality delivery. (Secretary, Social Welfare Department, Balochistan)*
- *I am keen to advocate for more projects to expand Non-Formal Education as the directorate has shown to be a credible entity (Secretary, Social Welfare Department, Balochistan)*

2) Coordination and Cooperation

- Through AQAL project inter departmental cooperation has enhanced productively
- Inter and intra departmental coordination has increased drastically to produce meaningful cooperation all together for Non-Formal Education in

provinces.

- AQAL project acted as a coordinating entity that brought provincial level public, development and private sector actors much closer to produce meaningful products for Non-Formal Education in provinces.

(In Balochistan, Social Welfare and School Education departments were literally stringent opponents to each other before AQAL project. But the project not only created a strong bond between these departments, but also enabled them to productively develop Non-Formal Education Policy, curricula, and assessment systems jointly)

3) Image of Non-Formal Education

- AQAL project effectively mediated in uplifting the capacity of Non-Formal Education Directorates and integrating them in mainstream Education Departments in provinces.
- AQAL project, by enhancing the delivery capacity of Non-Formal Education institutions, has created a favorable situation to improve the image of Non-Formal Education all across Pakistan
- Non-Formal Education has now earned an attention of the mainstream bureaucracy and politicians
- Non-Formal Education has regained its significance in the bureaucratic system of target provinces
- Non-Formal Education is no more an ad hoc approach, instead, has regained its worth in the eyes of people and decision makers

4) Quality focus

- AQAL project has inspired other provinces to focus on NFE (e.g. KP has started working on NFE policy)
- AQAL project has been consistent in increasing the quality of materials and delivery methods/ pedagogy
- Quality of delivery has remained a distinct clear focus
- Sounds based teaching methods has worked wonders in helping children learn the reading skills in earlier grades

“ My child is able to read in just a few weeks, which he could not learn in years in conventional public sector schools (a mother in one of the ICT NFBE center)”

5) AQAL team and its capacity to deliver

- AQAL team has been planning and executing activities more strategically and openly and has purposefully aligned its work with existing national level legal and technical guidelines
- Holistic planning, implementation and review strategies that AQAL team implies, is among the key strengths of the project
- Technical capacity of the AQAL team and ready made products such as curriculum, policy, teachers' management has really been helping in taking the work forward on a high pace
- AQAL team synergize outputs/ different project components to create meaningful relationship and outcomes that are useful for the Non-Formal Education
- AQAL team has broken the shackles that restrict innovation and thinking out of the box

6) Challenges

1. AQAL project scope is being enhanced rapidly
2. Capacity and ownership of counterparts
3. Institutionalization of AQAL project interventions
4. Timeline of the project

7) Future Plan of AQAL

Areas we consider as innovation

Outputs	Innovative areas/ interventions
Output # 1	Expanding and enhancing NFE platforms in different levels (e.g. business sectors)
	Policy framework for action/ action plan
	Strengthening Directorate of Literacy and other related organizations
	Exchange visits (in-country. Out of country)
Output # 2	Full use of NFE-MIS at Directorate level and ensure sustainability for their day-to-day implementation
Output # 3	Elementary and Vocational Education/ training Non-Formal Education
	Information Communication Technology (ICT)
	Complete development of trade-specific materials package and pilot the same

END

The list of the equipment

付属資料7

【September 2015 – May, 2017】

1	LapTop (DELL 7348)	13.3 inch, 2.2GHz, Intel Corei5, 8GB,500GB	2015/11/4
2	LapTop (DELL 7348)	13.3 inch, 2.2GHz, Intel Corei5, 8GB,500GB	2015/11/4
3	LapTop (Mac Book Pro Retina)	13.3 inch,2.7GHz, dual-core Intel Core i5,8GB	2015/11/15
4	LapTop (Mac Book Pro Retina)	13.3 inch,2.7GHz, dual-core Intel Core i5,8GB	2015/11/15
5	Digital Copier (Canon image RUNNER 2535)	Multi-function network device, Output speed: 35ppm (mono)	2015/12/18
6	LapTop (Dell Inspiron 5559)	15.6 inch,2.3GHz,Intel Corei5,4GB, 500GB	2015/12/21
7	LapTop (DELL Inspiron 7359)	Windows10, Intel Core i5,8GB	2016/3/8
8	LapTop (DELL Inspiron 7359)	Windows10, Intel Core i5,8GB	2016/3/8
9	LapTop (DELL Inspiron 7359)	Windows10, Intel Core i5,8GB	2016/3/8
10	Air Conditioner (Orient 19MAB3)	1.5Ton, 18000 BTU, DC inverter, Heat and Cool	2016/3/10
11	Air Conditioner (Orient 19MAB3)	1.5Ton, 18000 BTU, DC inverter, Heat and Cool	2016/3/10
12	Video Camera (SONY HXR-MC2500)	1/4-inch Exmor R CMOS sensor HD / SD AVCHD camcorder	2016/3/10
13	Multimedia Projector (SONY VPL-DX147)	3,200 lumens	2016/3/21
14	Multimedia Projector (SONY VPL-DX147)	3,200 lumens	2016/3/21
15	LapTop (DELL 7348)	13.3 inch, 2.2GHz, Intel Corei5, 8GB,500GB	2015/11/4
16	LapTop (DELL 7348)	13.3 inch, 2.2GHz, Intel Corei5, 8GB,500GB	2015/11/4
17	LapTop (Mac Book Pro Retina)	13.3 inch,2.7GHz, dual-core Intel Core i5,8GB	2015/11/15
18	LapTop (Mac Book Pro Retina)	13.3 inch,2.7GHz, dual-core Intel Core i5,8GB	2015/11/15
19	Digital Copier (Canon image RUNNER 2535)	Multi-function network device, Output speed: 35ppm (mono)	2015/12/18
20	LapTop (Dell Inspiron 5559)	15.6 inch,2.3GHz,Intel Corei5,4GB, 500GB	2015/12/21
21	LapTop (DELL Inspiron 7359)	Windows10, Intel Core i5,8GB	2016/3/8
22	LapTop (DELL Inspiron 7359)	Windows10, Intel Core i5,8GB	2016/3/8
23	LapTop (DELL Inspiron 7359)	Windows10, Intel Core i5,8GB	2016/3/8
24	Air Conditioner (Orient 19MAB3)	1.5Ton, 18000 BTU, DC inverter, Heat and Cool	2016/3/10
25	Air Conditioner (Orient 19MAB3)	1.5Ton, 18000 BTU, DC inverter, Heat and Cool	2016/3/10
26	Video Camera (SONY HXR-MC2500)	1/4-inch Exmor R CMOS sensor HD / SD AVCHD camcorder	2016/3/10
27	Multimedia Projector (SONY VPL-DX147)	3,200 lumens	2016/3/21
28	Multimedia Projector (SONY VPL-DX147)	3,200 lumens	2016/3/21
29	LapTop (Dell Inspiron 5547)	15.6 inch, 1.7GHz, Intel Core i7, 8GB, 1TB	2016/6/28
30	LapTop (Dell Inspiron 5547)	15.6 inch, 1.7GHz, Intel Core i7, 8GB, 1TB	2016/6/28
31	LapTop (HP Probook 440)	14 inch, 1.7GHz, Intel Core i5, 8GB, 1TB	2016/9/16
32	Laptop (Dell Inspiration7359)	13.3 inch, 2.3GHz, Intel Core i5, 8GB, 500GB	2017/2/14
33	Laptop (LENOVO IP Y700)	15.6 inch, 2.6GHz, Intel Core i7, 8GB, 1TB	2017/2/14
34	Work station (HP Z230) with monitor (HP NK571A)	Intel Corei7, 8GB,2TB	2017/2/21
35	Work station (HP Z230) with monitor (HP NK571A)	Intel Corei7, 8GB,2TB	2017/2/21
36	Air Conditioner(Orient Classic18)	1.5Ton,50 Feet Long Air Throw, 60% Energy Savings	2017/2/28
37	Air Conditioner(Orient Classic18)	1.5Ton,50 Feet Long Air Throw, 60% Energy Savings	2017/2/28
38	Air Conditioner(Orient Classic18)	1.5Ton,50 Feet Long Air Throw, 60% Energy Savings	2017/2/28
39	Air Conditioner(ORient 18C)	1.5Ton, DC inverter	2017/5/22